高等学校

平成13年度

教育研究員研究報告書

地理歴史・公民

東京都教職員研修センター
### 教育研究員名簿

<table>
<thead>
<tr>
<th>分科会</th>
<th>所属</th>
<th>氏名</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>世界史グループ</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>地理歴史</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>日本史グループ</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>都立井草高等学校</td>
<td>川副聡</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>都立墨田川高等学校</td>
<td>増田正弘</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>都立野津田高等学校</td>
<td>清水一郎</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>都立玉川高等学校</td>
<td>安田正和</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>都立武蔵村山高等学校</td>
<td>伊藤哲朗</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>都立小平西高等学校</td>
<td>田中暁朗</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>都立足立新田高等学校</td>
<td>奥澤誠一</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>都立足立工業高等学校</td>
<td>今井啓介</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>都立第三商業高等学校</td>
<td>池澤淳子</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>都立小金井北高等学校</td>
<td>安西弘幸</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>都立城南高等学校</td>
<td>山田豊和</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>都立大森東高等学校</td>
<td>小澤清司</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>都立江戸川高等学校</td>
<td>盛健二</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>都立東大和高等学校</td>
<td>沖山栄一</td>
</tr>
</tbody>
</table>

担当
東京都教職員研修センター指導主事 上村 聡
地理歴史分科会

I 研究主題設定の理由 ........................................... 2

II 研究の経過 ..................................................... 2

Ⅲ 展開 ........................................................... 4

＜世界史グループ＞
1 研究内容と方法 ................................................ 4
2 授業研究 ....................................................... 4
3 指導案 ......................................................... 5
4 分析と考察 .................................................... 12

＜日本史グループ＞
1 研究内容と方法 ................................................ 15
2 指導計画 ....................................................... 15
3 授業研究 ....................................................... 16

＜地理グループ＞
1 地理の授業で環境問題を取り上げる視点 ...................... 26
2 熱帯林破壊を取り上げた理由 .................................. 27
3 授業研究 ....................................................... 28

公民分科会

I 主題設定の理由と研究の経過 .................................. 37

II 展開 ........................................................... 39

展開1 倫理の授業「脳死と臓器移植」 .......................... 39
展開2 現代社会の授業「医療技術の進歩と生命倫理」 .......... 43

Ⅲ まとめ ........................................................ 47
【地理歴史分科会】

研究主題

基礎・基本の習得を通して問題意識を深め、自ら課題を追究し、解決・行動できる資質を育成する授業展開の工夫

Ⅰ 研究主題設定の理由

今日、わたしたちは、マスメディアやインターネットの発達などにより多種多様な情報を、大量に、そして瞬時に取り出すことが可能になった。しかし、その一方で、誤った情報に基づいて価値観を形成したり、氾濫する情報から混乱を生じ、事実を見誤ってしまったりするおそれも生じている。

こうした問題は、実際の生徒の様子にもみられる。マスコミから聞きかじった断片的な情報によって誤った認識のまま物事を分かったつもりになっている生徒や、「博識」ではあるが、問題の原因や深刻さ、それらが自分の生活にどのように関わっているかを考察するまでには及ばない生徒がいるなど、情報を持て余したり、情報に振り回されたりといった現実が生徒たちのなかにも存在する。

このような事態を打開するためには、膨大な情報のなかから適切に物事を判断したり、多様な事象の関連性や問題点について、自ら考え、解決していこうとする力を生徒に育成する必要があるろう。

授業において、まず重視したいのは、生徒が基礎的・基本的な知識を正確に習得することである。諸事象を成り立たせる根本的な知識を理解することなしに、学習を深めることは不可能であるからである。同時に、誤った固定観念をもつ生徒に対し、正しい知識や認識を教えたり、発見させたりすることを通じて、問題意識を深めさせることも重要である。

また、文献資料・統計・地図などを用いた作業的・体験的な学習を通じて、公正な判断力や諸事象を考察する基本的な視点や方法を身に付けさせ、学習成果を発表させることなどを通して生徒の主体性を伸ばし、多様な課題を自ら追究し、解決しようとする自覚や資質を養う指導も必要であると考える。

こうした観点から、本分科会では、基礎・基本の習得を士台に、生徒が主体的に課題を追究し、問題を解決していく資質を育成する授業づくりをテーマとして、「地理」と「歴史」、それぞれの立場で研究に取り組んだ。

Ⅱ 研究の経過

(1) 歴史分野＜世界史グループ・日本史グループ＞

主体的な学習による問題解決能力の育成には、まずていねいな基礎・基本の学習を行い、生徒のもつ断片的な知識や情報を整理・補完することが必要である。そして、これによって得られた正確な知識をもとに、生徒が自ら多面的に課題を追究し、問題を解決していく力を養う、という授業展開が適切と思われる。さらに、「教員誰もが実践できる授業展開の工夫」を試みた。

世界史グループは、「中華的世界の崩壊」を主題に、3 時間構成の指導計画を設定し、展
開例は「アヘン戦争」を取り上げた。その理由はアヘン戦争は中学校で学習済みであるが、その原因を深く探ることでグローバルかつ複合的（多角的）な視点をもつことができることである。

共通のワークシートを作成し、今回的研究員がそれぞれの高校で、以下の手順で授業展開することとした。

- 第1時限目に基礎的な知識を習得させながら、生徒に対して「なぜ？」 「なぜ？」といくつかの問いかけ（設問）をする。
- 設問に対して出された意見をもとに、第2時限までに生徒自らが宿題（課題）について考え、答えを追究してくるように指示する。
- 第2時限目に、生徒が導き出した解答を発表させ、発表内容について、教員が批評・補足する。

日本史グループは、「文治政治の展開」を主題に、「元禄・正徳期の貨幣改廃」を取り上げ、3時間構成の指導計画を設定した。3代将軍徳川家光から4代将軍家綱への政権交代は、一般的に、武断政治から文治政治への転換期として位置づけられている。元禄期は、都市の発達にもとづく町民たちの経済活動がさかんになり、新興商人が台頭してくるなど、時代の大きな転換点としても注目されている。また、元禄期の幕府財政は、鉱山収入の激減と支出増加によってその悪化が深刻な問題となっていた。このため、江戸幕府は元禄・正徳期にいずれも貨幣改廃を行い、経済の建て直しを図るが、かえって経済の混乱を深めることになった。こうした時期の経済を扱うことは、今後の学習活動において有効であると考えられる。そこで特に「元禄・正徳期の貨幣改廃」に焦点を当て、幕府の経済政策の転換点としての意味について、生徒の理解を深めさせ、またワークシートを工夫することによって、生徒が主体的に学習できるよう配慮した。

（2）地理分野＜地理グループ＞

世界各地に生起している地球的課題には、地域・国境を越えて取り組むべき問題が数多く存在する。国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う上で、現代世界が取り組む諸課題を生徒一人一人が自らの課題として学習することは、非常に重要である。

特に、「環境問題」は、マスコミでもびびび取り上げられており、生徒にとって身近な問題であると同時に、早急な解決が求められる問題であるといえる。また、諸地域の地域性や国際社会の結びつきを多面的に学習するために効果であり、別項で述べるように、研究主題の内にきも合致するという判断から、本グループは「環境問題」を題材に研究に取り組むこととした。

今回の授業研究では、さまざまな環境問題を細切れの知識やエピソードとして扱うのではなく、取り上げる地域をある程度絞ることにした。そうすることで、「環境問題」を切り口に、問題の背景にある「南北問題」や「大量消費社会」の在り方などにも学習を広げ、広い視野から地理的認識を深め、基礎・基本を習得し、地理的な見方・考え方を身に付けさせたいと考えた。また、生徒の興味・関心をひく実物教材や視聴覚教材、ワークシートを導入するとともに、問題の解決について生徒が考察したり発表したりする機会を設定するなど、授業展開に多様な工夫を試みた。
Ⅲ 展開
＜世界史グループ＞
中華的世界の崩壊

1 研究内容と方法
本グループでは、「中華的世界の崩壊」をテーマに、3時間の単元学習を設定した。第1時限では、「アヘン戦争」の扱い、伝統的な中華世界に“西洋の圧迫”がどのような形で迫ってきたかを考察させる。第2時限では、「太平天国とアロー戦争」の扱い、アヘン戦争後の中国社会の混乱を理解させ、中国における近代化運動の必要性について考察させる。第3時限では、「洋務運動と日清戦争」を扱い、中国の近代化運動の性格と限界を理解させるとともに、日清戦争の敗北による中国を中心とした伝統的な東アジアの国際体制の崩壊を考察させる。全3時間の学習を通し、生徒に「基礎・基本の習得」を徹底させるとともに、課題の考察・学習成果の発表を行うことで、生徒が主体的に参加する授業づくりをめざした。さらに、本グループでは、3人の授業者が共通のワークシートを使用し、それぞれの学校で実施した授業の成果を持ち寄り、比較・検討する方法をとったが、本報告書には第1時及びその発表を行う第2時についての指導案を掲載した。なお、本グループの単元学習は、新学習指導要領の「世界史A」の「（2）一体化する世界」の「エ アジア諸国の変貌と日本」、または「世界史B」の「（4）諸地域世界の結合と変容」の「エ 世界市場の形成とアジア諸国」に位置づけて実施する。

2 授業研究

(1) 指導計画

<table>
<thead>
<tr>
<th>学習項目</th>
<th>具体的な学習内容・学習活動</th>
<th>留意点</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>第1時</td>
<td>アヘン戦争</td>
<td>• 18世紀後半までのイギリスと中国との貿易構造について考察する。&lt;br&gt;• 18世紀半ば以降のイギリス・インド・中国的三角貿易について考察する。&lt;br&gt;・アヘン流入に対する中国側の対応について考察する。</td>
</tr>
<tr>
<td>第2時</td>
<td>太平天国とアロー戦争</td>
<td>• 南京条約の内容を確認し、その影響を考察する。&lt;br&gt;• 太平天国運動の経緯と運動の民族主義的な性格を考察する。&lt;br&gt;・アロー戦争の経緯と北京条約の内容を確認する。</td>
</tr>
<tr>
<td>第3時</td>
<td>洋務運動と日清戦争</td>
<td>• 日本の明治維新との比較を通じて、洋務運動の性格を考察する。&lt;br&gt;• 朝鮮半島をめぐる日本と中国との対立の経緯を確認する。&lt;br&gt;・下関条約の内容を確認し、東アジアにおける中国の立場の変化を考察する。</td>
</tr>
</tbody>
</table>

- 4 -
3 指導案

第1時 アヘン戦争

(1) 本時のねらい

本時は、次時の発表授業の前段階として、アヘン戦争の基礎・基本をしっかりと学ぶこととした。アヘン戦争については中学において学習をしているので、ある程度の知識が生徒にもあると考えられる。今回は、アヘン戦争の原因に時間をかけて授業展開することで、世界史的な広がりの中でアヘン戦争を捉えられるようにしていく。

また、設問を設けることで、資料から何を読みとったらよいのか、ポイントを明確にし、生徒が主体的に考えるヒントとしたい。

アヘン戦争の結果（南京条約）、清が敗北した理由、日本への影響については、次時の授業までに生徒が調べ、発表することとする。

以上を通じて、今回の研究主題である、主体的に自ら課題を追求し、解決し、行動できる資質を育成する。

(2) 本時の展開（ワークシートは8～11ページに掲載）

<table>
<thead>
<tr>
<th>学習項目</th>
<th>学習活動</th>
<th>指導上の留意点</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>導入</td>
<td>○イギリスと中国との関係について</td>
<td>○設問1 『なぜイギリスは中国から大量の紅茶を輸入していたのか。』イギリスの産業革命時の労働者について復習するなかで、労働者の飲料となったこと、健康的な労働者を手に入れたい資本家の利益にもかかわるものであったことを確認する。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>○イギリスと中国の貿易構造</td>
<td>○設問2 『18世紀後半までの貿易構造の特徴について片貿易の図の（ ）に適語を入れなさい。』その際、以下のことについて確認する。 1イギリスは茶を輸入するために支払いを銀で行っていたこと。 2イギリスは銀ではなく紡績物を中国に輸出するという貿易関係をもちたかったこと。</td>
</tr>
</tbody>
</table>
|  | | ○設問3 『設問2の貿易構造を転換するためにイギリスはどうしたらよいか』 ○設問4 『実際の貿易構造は次のように変化した。（ ）に適語を入れなさい。』 1インド産アヘンを中国に密輸することで、三角貿易体制を築き、対中国貿易赤字（イギリスからの銀流出）をくいとめる。 2公行を廃止させ、中国が門戸を開放し、イギリスが直接貿易することに
<p>| 展開 | | ○18世紀半ばから19世紀半ばまでのイギリスと中国の貿易を示す資料として『乾隆帝のジョージ3世に宛てた手紙』を提示する。 お三角貿易の図の（ ）に適語を入れながら、1)を考えさせる。 2)については適度に助言を与える。 |</p>
<table>
<thead>
<tr>
<th>アヘン流入に よって引き起こされる中国の問題</th>
<th>アヘン対策</th>
<th>アヘン戦争</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>○アヘン流入によって引き起こされる中国の問題</td>
<td>○アヘン対策</td>
<td>○アヘン戦争</td>
</tr>
<tr>
<td>①社会への影響はアヘン戦の絵を見てから考える。</td>
<td>①社会への影響はアヘン戦の絵を見てから考える。</td>
<td>①社会への影響はアヘン戦の絵を見てから考える。</td>
</tr>
<tr>
<td>②銀の流出が中国の民衆を苦しめることになった理由を考える。</td>
<td>②銀の流出が中国の民衆を苦しめることになった理由を考える。</td>
<td>②銀の流出が中国の民衆を苦しめることになった理由を考える。</td>
</tr>
<tr>
<td>①、②の学習を進めるながら、あわせて課間6のグラフを作成する。</td>
<td>①、②の学習を進めるながら、あわせて課間6のグラフを作成する。</td>
<td>①、②の学習を進めるながら、あわせて課間6のグラフを作成する。</td>
</tr>
</tbody>
</table>
| ○アヘン戦争「新たな、清の皇帝であったらどのように対応するか、」資料を見ながら、対応策について考察し、発表する。 | ○アヘン対策 | ○問題点・解決策について列挙し、記入してくることを確認する。
| ○アヘン戦争の経過を説明する。 | ○アヘン対策 | ○問題点・解決策について列挙し、記入してくることを確認する。
| ○アヘン戦争の経過を説明する。 | ○アヘン対策 | ○問題点・解決策について列挙し、記入してくることを確認する。
| ○アヘン戦争の経過を説明する。 | ○アヘン対策 | ○問題点・解決策について列挙し、記入してくることを確認する。
| ○アヘン戦争の経過を説明する。 | ○アヘン対策 | ○問題点・解決策について列挙し、記入してくることを確認する。
| ○アヘン戦争の経過を説明する。 | ○アヘン対策 | ○問題点・解決策について列挙し、記入してくることを確認する。
| ○アヘン戦争の経過を説明する。 | ○アヘン対策 | ○問題点・解決策について列挙し、記入してくることを確認する。
| ○アヘン戦争の経過を説明する。 | ○アヘン対策 | ○問題点・解決策について列挙し、記入してくることを確認する。
| ○アヘン戦争の経過を説明する。 | ○アヘン対策 | ○問題点・解決策について列挙し、記入してくることを確認する。 |
（3）評価の観点
・ワークシートをしっかり記入しているか。
・資料からしっかりと解答を導き出すことができたか。

第2時 アロー戦争と太平天国
（1）本時のねらい
前時の授業をうけて、発表授業をおこなう。さらに、これを導入とし、『アロー戦争と太平天国』について基礎・基本的な事項を学ぶ。

（2）本時の展開

<table>
<thead>
<tr>
<th>学習項目</th>
<th>学習活動</th>
<th>指導上の留意点</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>導入</td>
<td>○前時の復習</td>
<td>○アヘン戦争の結果、清が敗れて南京条約が締結されたことを確認する。</td>
</tr>
<tr>
<td>展開</td>
<td>○発表授業</td>
<td>○前回提示した宿題を発表する。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>○說明を聞きながらワークシートに記入する。</td>
<td>○発表予定者、グループのリサーチペーパーを提出させる。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>○説明を聞きながらワークシートに記入する。</td>
<td>○発表予定者のリサーチペーパーを印刷しておく。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>○アロー戦争について</td>
<td>○疑問点につなげられるようポイントを押さえつつ、簡潔に説明する。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>○説明を聞きながらワークシートに記入する。</td>
<td>○本日のワークシートを配布</td>
</tr>
<tr>
<td>まとめ</td>
<td>○太平天国・アロー戦争の影響</td>
<td>○発表をうけて、授業につなげていく。</td>
</tr>
</tbody>
</table>
| | ○列強はアロー戦争後、どのような内容の条約を結んだか、その内容を確認する。 | ○太平天国の時に列強は何をしていったのか、考えさせる。
列強はアロー戦争による勝利の後、対清朝について、対太平天国に対して、どのような対応をするか、それぞれ考えさせる。 |
| | | ○第3時の授業につなげていくために列強と清朝の立場を整理して説明する。 |

（3）評価の観点
・リサーチペーパーを作成、提出したか。
・発表をわかりやすく行うことができたか。
・本時のワークシートをしっかり記入しているか。
アヘン戦争

【世界史ワークシート】

アヘン戦争

【アヘン戦争の背景】

設問1 なぜイギリスは中国から大量の紅茶を輸入していたのか。

設問2 下記の図を見て、18世紀後半までの貿易構造の特徴について、（ ）に入れる物産を入れなさい。＜資料1＞を参考にすること。

<資料1> 乾隆帝のイギリス国に対する勅訳 1793年9月23日
天朝の物産は豊かで無いもののはなく、もともと外国産のものに頼って有無を通ずる必要はない。ただ天朝に産する茶、磁器、生糸は西洋各国および汝の国の必需品であるから、恩恵を加え、マカオに洋を開放して日用品を貢助し、天朝の余沢にうるおうことを認めているのである。にもかかわらず今、汝の国の使節（ジョージ・マカートニー）が定例に反することを負わしくと陳情するのでは、恩恵を遠人に加えて、四夷を撫育するという天朝の意に対して無理解も甚だしいといわなければならない。

『大清高宗実録』巻1437

設問3 上記の貿易構造はイギリスにとって好ましいものではなかった。イギリスはこの貿易構造を転換するためにはどうしたらよいか。そこで、上記＜資料1＞の波線や設問2の図にあった『公行』についても注目し、答えること。

設問4 実際の貿易構造は次のように変化した。（ ）に適語を入れなさい。
設問5 『アヘンの流入によって中国の社会・経済はどのように変わらぬと思いますか』

設問6 『次の表を使って、清朝への銀の流入量を折れ線グラフの形で書き加えなさい。』

<table>
<thead>
<tr>
<th>年</th>
<th>銀の流入量（万銀両）</th>
<th>アヘンの輸入量（箱）</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1820</td>
<td>15</td>
<td>42</td>
</tr>
<tr>
<td>1821</td>
<td></td>
<td>60</td>
</tr>
<tr>
<td>1822</td>
<td>-250</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>1823</td>
<td></td>
<td>90</td>
</tr>
<tr>
<td>1824</td>
<td>-53</td>
<td>124</td>
</tr>
<tr>
<td>1825</td>
<td></td>
<td>94</td>
</tr>
<tr>
<td>1826</td>
<td>-356</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>1828</td>
<td>-486</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>1830</td>
<td>-504</td>
<td>200</td>
</tr>
<tr>
<td>1832</td>
<td>-375</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>1833</td>
<td>-964</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>1834</td>
<td></td>
<td>220</td>
</tr>
</tbody>
</table>

清朝の銀の流入量とアヘンの輸入量

年

箱

万銀両

- 9 -
設問7 『あなたが、清の皇帝であったら、どのように対応しますか。＜資料3, 4＞を参考にしなさい。』

＜資料3＞ 許乃濟「アヘン厳禁政策の修正に関する上奏」1836年6月10日
結局のところアヘンの吸鴉者は怠惰で志もない、問題にならない連中であり、また老齢になって喫む者もあるが、それが人の寿命を縮めているとはいえない。国内の人口は日に日に増加しており、その減少の恐れは断じてないが、しかし年々中国の富が失われるのは、早急に徹底した対策をたてる必要がある。現在、対外交易を断絶することは不可能であり、禁令は実効が少ない。可能な方策は旧例を照らして、アヘンを薬剤として扱って外国商人に税金を納めさせ、海関を通って行商に渡ったのち、銀での取引を禁じて物々交換のみを許すことである。外国商人の納税額も、従来の賃賜よりは軽くすむから、彼らも喜んで従うだろう。

『黄爵滋奏疏許乃濟奏議合刊』，中華書局，1959年

＜資料4＞ 林則徐「各国の商人にアヘンの提出を命ずる論」1839年3月18日
今回，本欽差大臣（林則徐）は都にて皇帝陛下の御命令を面奉し（カントン）に派遣されのであるから、法令は必ず実行するつもりである。かつ，すでに欽差大臣の官印を帯びているから、自分の裁量で事にあたることができ，一般事件の取り調べとはわけが違うことを覚悟せよ。もし，アヘンの禁絶が遅れば，それだけ本大臣のカントン滞在ものののひことになるぞ。誓って本大臣はアヘンの禁絶と終始取り組み，途中でやめるつもりはさらさらない。

ましてや，中国国内の民情はといえば，皆な（アヘンの害毒に）義務を感じているではないか。

『林則徐集・公議』

☆道光帝のとった政策：アヘン禁止
アヘン禁絶論者（ ）を特命全権大使として広州に派遣し，反発したイギリス商人からアヘンを没収する。

II アヘン戦争と南京条約
設問8 『イギリスはアヘンを理由に戦争することをどのように考えたと思いますか。』
＜資料5＞ 若き日のグラッドストンの演説・・・後イギリス自由党党首
大英帝国の国旗は、今や、かの醜恥なアヘン貿易を保護するために掲げられることになった。国旗の名誉は汚された。

＜リサーチペーパー＞

宿題
○南京条約の内容について調べ、次回の授業の際に発表する。
追加条約についても同様に調べなさい。さらに、アメリカ・フランスとはどうだったのか。

○どのような点が問題で清朝は負けたのか。敗戦後、どのようなことを改善しなければ成らないのか。問題点・改善策を列挙すること。

○日本はアヘン戦争についてどのように情報を得ていたか。
江戸幕府は対外政策を変更したか。

★下記の参考文献中より資料として掲載しました
資料1、2、3、4は
小島晋治・並木頼寿 『近代中国研究案内』 岩波書店
資料5は 錦引弘 『世界の歴史がわかる本』 三笠書房
4 分析と考察
（1） A高校の場合
A校は大学進学を希望する生徒がほとんどである。2学年の「世界史B（3単位）」必修の授業で、担当する4クラスで行った。通常の授業形態は、教科書に沿って作成した書き込み形式プリントを配布し、説明をしながら一緒に世界史重要用語などを記入し、要所要所で生徒に問いかけをして、意見を出してもらい、そのポイントを板書しながら講義を進めていく形式で、基本的に宿題は出さない。
指導案に基づき、第1時間目に今回の共通ワークシートで「アヘン戦争」の授業を行った。この授業では、通常より設問の数が多かったので、問いかけに対し生徒から出た意見やそのまとめを教員が口頭で説明し、板書する時間がなかった。生徒各人がそれぞれワークシートに梅をとり、帰宅後に、その内容を自分でまとめ、他の資料なども利用しながら宿題として出した課題に対する答えを導き出すという形となった。また、時間割の都合上、宿題を発表する第2時間目は翌日になり、生徒としては時間的に余裕がない状況で発表することになった。次に生徒の感想をいくつか紹介する。
· 面白い、調べるのは大変だけど、皆の考えを聞けたり、ただただただとノートを書いて線を引いてやっていくより、裏まで見えてくる感じ。今までより深く知ることができそう。
· 今回、初めてこういう形の授業をやってみて、正直、自分にとっては難しくて、戸惑いました。『歴史って深いな。』と改めて思わされた感じです。でも、ただ先生に「これこれこうだからこうだった。」と教えてもらうより自分で「どうしてこうなった、今につながっているのか。」というふうに考える方が自分のためになると思いました。やっぱり自分でいろいろ考えれば考えた分、身についていくような気がします。私は考えることはあまり好きな方ではないし、苦手だけど、すごく大切なことだと思います。だから、今回こういう機会を与えられてよかったです。
· 一部の人はちゃんとシッカリ調べていたのですごいなぁーと思いました！でも私は、やっぱりいつもみたいな授業のほうがわかりやすく思っていいました。みんな考えたことが聞けるので、これはこれで楽しかったです。
· 深い理解が得られるので良いと思うけれど、世界史を好きな人でなければすごく大変だと思う。なるべくやって欲しくないです。
· 自分で調べたり、自分の考えを書くのはとても大変で時間がかかった。1日で提出するのは時間が足りない。長期の休みの時ならいいけど・・・。
以上のようない五行の感想から、自分で調べたり考えたりするとより理解が深まるという点で、多くの生徒が今回の授業形式も良かったと評価している。実施した教員としても、今回の場合を4月最初の授業から世界史授業のスタイルとして行えば、徐々に生徒も慣れて、今回の研究主題である『基礎・基本の習得を通して問題意識を深め、自ら課題を追究し、解決・行動できる資質を育成する』に有効な方法であると手応えを感じた。
注意点としては、生徒が自主学習に慣れていないはじめのうちは、授業の中での設問はもう少し少なく、宿題（課題）も一つにしたほうが取り組みやすく、宿題（課題）を発表する第2時間目まで2、3日の猶予があるほうが良いのではないか、と思われる点である。
（2）Ｂ高校の場合

Ｂ校はどちらかというと基本的な内容の理解に時間がかかる生徒が多い学校である。Ｂ校では３年生１クラスを対象に授業研究を行った。通常は黒板を使ったいわゆる講義方式の授業を行っているクラスで、今回の指導案に基づき授業を行った。授業を行ってみて良いと感じた点は、授業中常に質問されるのと、生徒に緊張感があり、作業をしないと次に進めないので、集中して授業に取り組むようになったことである。一方改善すべきと感じられた点は、本校の生徒に対しては別掲のワークシートでは作業が多く、１時間の中ですべて行わせるのは困難だった点である。ワークシート作成の際にも少しシミュレーションを行い、作業量の適正水準を考えるべきだった。ただしこの点は、日常的にワークシートを使って、書くことが習慣化されれば適正水準は変わってくると思われる。次に、宿題を課すという点だが、これも習慣化していないので、きちんとやり遂げたのは生徒の半数程度だった。本校の事例では、宿題を課してから次の発表の授業まで１週間の余裕があったので、途中経過を見せるようにさせた。すべての生徒に対応することは時間的に難しく、今回のように次に授業に発表がある場合は、途中経過を指導するというのは困難だと感じた。また、グラフを記入させるのはグラフを読み取らせるために行われたのだが、本校のレベルでは、グラフは正確に記入できるが、そこから何かを読み取ることは難しく、グラフから読み取ることも発問を行って促していかないと困難だった。しかしこれも日頃の積み重ねだいたいと思われる。

次に、授業後に行ったアンケートからいくつか代表的な意見を見てみよう。

①通常の講義形式の授業と比べてどう感じたか？
・たくさんの授業を受けてきたけど、実は何も理解をしていなかったのに気づいた。
・最初宿題にされたときはやだなーと思っていたけど、やってみると案外面白かった。
・調べるのはかまわないが、資料ばかり見て授業を受けるのはやる気が無くなる。
・先生にあてられた人だけが授業してるみたいだった。

②今回のプリントの設問についてどう思ったか？
・自分の思ったこと・考えを書くところが、その物事についてよりよく理解できた。
・普通のプリントは記入するだけだが、このプリントは自分の考えを聞いてくるから面白い。
・自分の思っていることを書くよりも、教科書から抜き出したりするのが好き。
・プリントはもう少し説明の多いものがいい。自分で書くところとの割合が５：５で。

アンケートの結果では、肯定的な意見と否定的な意見がほぼ半々であり、否定的な意見の中でもプリントの構成（資料ばかり見るのは？、教科書から抜き出して書くところも必要では？）については否定というよりも改善点として受け入れるべきだと考える。「あてられた人だけが・・・」という点は、全体を見渡して授業者が常に気をつけるべきであり、これも改善点といえるだろう。まとめると、細かな改善点は多々あるが、生徒を活動させ、能動的に授業に向かわせるという点で、今回研究した授業計画は意義があるといえるのではないだろうか。

（3）Ｃ高校の場合

Ｃ校は、ほとんどどの生徒が大学への進学を希望している学校である。また、Ｃ校では大幅な選択制を取り入れた教育課程が編成されており、「世界史」は２年次での、「世界史Ａ（２単位）」と「世界史Ｂ（３単位）」の必修選択となっている。本考察は、「世界史Ａ」における２２人クラス
での授業研究に基づく報告である。

通常、授業者は教科書・図説・書き込み式のプリントを用いて講義式の授業を行い、本授業研究のような発表形式の授業はほとんど取入れていない。そのため、本授業研究に際し、「自分の考えを頭の中でまとめ、それを文章にして表現し、さらにそれを他の生徒の前で発表していく」という作業に、生徒は当初戸惑いを感じ、また、授業者も生徒に考える時間をどのくらい与えればよいのかを的確につかむことができず、当初の計画時間を大幅に上回ってしまった。

以下、ワークシートの設問に対する生徒の解答の分析を試みる。設問1に対して、生徒の解答は「中国の茶が安いか」、「中国から輸入して、他のヨーロッパ諸国に売るため」というのがほとんどで、授業者が期待した、産業革命時のイギリスの労働者の状態との関連を指摘した解答は1例であった。世界史を同時代史的にとらえる視点がなかったともなっていない例である。設問3に対しては、半数以上の生徒が、「公行」がイギリスの自由貿易を妨げるものであることを指摘し、その廃撤を方法論としてあげた。また、「中国に売りつけることができるものを探す」という解答もあり、基本的には、イギリス・中国間の貿易構造については理解されているとみることができうる。設問5に対しては、ほぼ全員が「アヘン中毒者が増大し、社会的な混乱がおこる」という解答を出していたが、経済的な影響については、「アヘン中毒者が労働者の間にも広まり、生産力が落ちる」という解答が数例あったため、中国の税制との関連を指摘できる生徒はいなかった。これでは、「世界史A」では、明・清時代の社会経済をほとんど扱っておらず、仕方のないことと考えられる。設問6の作業は全ての生徒がこなし、活動を通して、授業者が何を生徒に問いかけたかかったか、明確ではなかったような気がする。設問7については、アヘン厳禁論の立場に立つ解答がほとんどであった。これでは、設問5の解答から予想された結果であるが、その方法としては、「イギリスとの貿易をやめる」という解答と「アヘンを吸🛡している中国人に厳罰を与える」という解答が主であった。設問8に対しては、2/3の生徒は否定的な立場にたち、1/3の生徒が肯定的な立場に立った。否定的な立場に立った生徒の解答は「アヘンという一種の麻薬のために戦争をするのは非人道的である」といった理由が主であり、肯定的な立場に立った生徒の解答は「イギリスが自由貿易を実行するためには仕方ない」という理由が多かった。宿題部分については、「南京条約ほかの内容」については、おおむね生徒はよく調べてきていた。「清朝の敗因と改善点」については、「軍事力の差」を指摘する意見が多く、「世界の情勢をよく見る必要がある」、「外国外に学び近代化を進める必要がある」といった改善点をほとんどの生徒があげていたが、授業者の予想と異なる解答は出てこなかった。最後の「日本との関係」については、無解答のものが多く、「世界史A」選択者に対して、「日本史」を意識した授業の必要性を感じた。

（4）まとめ

今回の授業方法は、通常の講義形式の授業と比べて、自分で考え調べなければならないという点で、今回の研究主題に沿った有意義な方法であると考えられる。改善点としては、突発的にこの方法を行っても生徒はすぐには考えることはできないので、年間計画の中に組み入れて、最終的に生徒が常に考え調べる姿勢を年間の中で身につけさせるようにした方が良い。またワークシートの形式や設問の構成を各学校の実態や年間計画に合わせて調整する必要を感じた。
＜日本史グループ＞
文治政治の展開

１ 研究内容と方法

本グループでは、文治政治の展開を主題に以下の指導計画表の通り3時間構成で単元学習を設定した。全3時間の学習活動を通し、「基礎・基本の習得」を徹底させるとともに、課題を設定し、生徒に主体的に考察させたり発表の場を設けたりすることによって、自ら問題を解決し行動できる資質を育成することを目指した。なお、新学習指導要領では、「日本史B」の「④近世の社会・文化と国際関係」の「産業経済の発展と都市や村落の文化」に位置づけて実施する。

本グループでは第3時において、生徒の関心・学校の実情を勘案し、3校でそれぞれワークシートを作成して授業研究（事例A〜C）を行った。ワークシートの作成に当たっては、貨幣改鉄を主として財政・物価・景気の動向を理解させ、当時の為政者の政策を評価させた。A校・C校では、貨幣の質に焦点を絞って、経済への影響を考察させた。B校では、当時の社会情勢にも目を向けさせるよう工夫した。

２ 指導計画

<table>
<thead>
<tr>
<th>学習項目</th>
<th>具体的な学習内容・学習活動</th>
<th>留　意　点</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>第1時</td>
<td>武断政治から文治政治への転換</td>
<td>・慶安事件を題材とし、武断政治の弊害について考える。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>・武断政治から転換した幕府の政策を理解する。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>・各藩における文政政策を理解する。</td>
</tr>
<tr>
<td>第2時</td>
<td>元禄・正徳期の政策</td>
<td>・室町将軍就任経緯を確認する。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>・室町の政策を、前半の天和の治と柳沢吉保登用後の後半に分けて理解する。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>・新井白石登用の経緯を確認する。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>・正徳の治の概要を理解する。</td>
</tr>
<tr>
<td>第3時</td>
<td>元禄・正徳期における貨幣改鉄</td>
<td>・貨幣制度、貨幣と経済の関係を理解する。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>・荻原重秀が财政難対策として行った貨幣改鉄について考える。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>・新井白石が前代の批判の上で行った貨幣改鉄について考える。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>・元禄・正徳期の政策の違いを確認し、その政策を評価する。</td>
</tr>
</tbody>
</table>

- 15 -
### 3 授業研究（第3時 元禄・正徳期における貨幣改鑄）

(1) 授業研究事例A

#### ア 本時のねらい

政治的背景の中から「元禄・正徳期における貨幣改鑄」を取り上げ、まず当時の貨幣制度、貨幣と物価・景気とのかかわり、幕府の経済政策について「基礎・基本の習得」を図る。次に資料等の読みとりによって、元禄期の荻原重秀と正徳期の新井白石の異なった政策を主体的に考察・評価させ、歴史的思考力を培い、自ら課題を追求し、解決・行動できる資質を育成する。

なお、貨幣と経済の関係は近代史以降も頻繁に扱われ、国際関係にも影響を与えてきた重要な問題なので、本時の学習が今後の学習にも活かされるようにしていきたい。

#### イ 本時の展開

<table>
<thead>
<tr>
<th>学習項目</th>
<th>学習活動</th>
<th>指導上の留意点</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>導入</td>
<td>貨幣の種類</td>
<td>貨幣の種類、性質等を確認する。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>貨幣と経済の関係</td>
<td>貨幣の質と物価の関係、貨幣の発行量と景気の関係を確認する。</td>
</tr>
<tr>
<td>元禄期の貨幣改鑄</td>
<td>勘定吟味役荻原重秀の意見を取り入れて、貨幣改鑄を行ったことを確認する。</td>
<td>作業をさせ、小判の質の変化に着目させる。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>資料等を読みとり、貨幣改鑄の内容・荻原重秀のねらい・改鑄の影響を考察してワークシートに記述し、代表者が発表する。</td>
<td>机間指導を行い、適度に助言を与える。</td>
</tr>
<tr>
<td>正徳期の貨幣改鑄</td>
<td>新井白石が貨幣改鑄を行ったことを確認する。資料等を読みとり、貨幣改鑄の内容・新井白石のねらい・改鑄の影響を考察してワークシートに記述し、代表者が発表する。</td>
<td>作業をさせ、小判の質の変化に着目させる。</td>
</tr>
<tr>
<td>開</td>
<td>東方重秀、新井白石の経済政策の評価</td>
<td>両者の政策を評価してワークシートに記述し、代表者が発表する。</td>
</tr>
</tbody>
</table>

- 16 -
| ま   | 元禄・正徳期の経濟政策のまとめ | - 発表に対し、適切なコメントを行う。 |
| と   | 経済政策の結果、経済が混乱し、財政悪化も解消されない中で、改革の必要性に迫られている状況を理解する。 | 元禄・正徳期の経済破綻が、後の三大改革につながっていくことを意識させる。 |

ウ 評価の観点
1. 「元禄・正徳期の貨幣改定」について、興味や関心をもつことができたか。
2. 江戸時代の貨幣制度について、「基礎・基本」を習得することができたか。
3. 資料等を分析し各設問に答えることによって、貨幣改定を行った為政者のねらいと、そのためにおきた経済・社会の変化を理解することができたか。
4. 「元禄・正徳期の貨幣政策」の違いを理解し、評価することができたか。
5. 全体を通じて、自ら考え、課題を追求する姿勢がみられか。また、その過程を通じて、「基礎・基本」の習得の徹底が図られたか。

エ 考察
まず前半における貨幣制度についての「基礎・基本」であるが、難しい題材ではあったものの前半における事前学習の効果もあり、比較的多数の生徒が習得できたようである。しかし、主体的に学習させる後半部分の時間を確保するために説明がやや長くなってしまい、一部理解できていない生徒がいたことも事実である。時間配分を考慮しつつも、重要な部分についてはゆっくりとした丁寧な説明が必要であった。次に資料の分析・考察であるが、このような学習にあまり慣れていなかったためか、なかなか資料の読みとりができない生徒がいた。そのような生徒には、助言を与えることによって何か正解を導き出すことができたが、資料分析に対する習熟不足を感じた。授業の最後に、荻原重秀と新井白石の貨幣改定の違いを評価させた。この検証授業を行ったクラスでは、荻原支持が15名、新井支持が14名、両方支持しないが2名という結果で、ほぼ半数ずつに評価が分かれた。支持の理由については、荻原支持では「物価が上がり庶民の生活が苦しくなったが、少なくとも財政・景気面で結果を残した。」、新井支持では「結果は失敗したが、庶民のために物価を安定させようとしたその気持ちを賞賛したい。」という意見が多かった。理由をみる限りでは、それぞれの政策の違いを理解した上で評価できていたようである。本日の授業を受けた感想では、「今回のような、自分で考え答えを求めていく授業は良かった。頭の中に入りやすいし、今後自分で考える機会が多くなってくるから。」というものが多かった。自ら考え課題を探求することで、「基礎・基本」の習得の徹底が図られてきたと判断できる。しかし、中には「いつもの授業の方が良かった。」という意見もあり、本日の効果をより大きくするためには、今後もこのような形態の授業を継続的に行い、主体的な学習に慣れさせる必要性があると感じた。
(2) 授業研究事例Ⅷ

ア 教材構成上の視点

① 元禄時代と正徳時代の貨幣改鋳がそれぞれどのような目的で行われたかは、政策を推進した二人の人物を通して理解できるよう工夫した。

② 貨幣改鋳にともなう貨幣の質の変化が、物価（主として米価）の動向にどのように影響を与えたかを具体的に理解できるよう工夫した。

③ 3度にわたる貨幣改鋳が行われた元禄八（1695）年から正徳五（1715）年までに国内で発生した主な出来事の年表を作成し、その年表と米価の推移をまとめたグラフを比較させることにより、米価の動変の要因について理解できるよう工夫した。

イ 指導上の留意点

① 生徒に対して「これは何故起こったと思うか」、「このような結果になったのはなぜだと思うか」などの質問を行い、教員が説明する場面でも一方通行の授業にならないよう配慮した。

② 教員の発問やプリントの質問に対する答えを生徒に発表させ、その答えに対して教員がすみやかに評価を行った。これは生徒が自分の答えに対する評価を得ることで、やる気が促されることを期待するとともに、自分が努力した結果が授業の中で認められたり、自分の発言や答えが授業の中で生かされたという体験が、自分自身に対する自信を深めさせ、生徒一人一人の自己有用感の形成に効果があるのでないかと考え、実践を行った。

ウ 評価の観点

① 異なる複数の資料を分析し、質問に対する解答を導き出すことができたか。

② 自分の答えと他の生徒の考えを比較して、より適切な答えを導き出すことができたか。

③ 貨幣改鋳が米価を引き上げる要因があったこと、また改鋳以外にも米価を動変させる要因があったことを、資料を参考として考えることができたか。

④ 江戸時代の貨幣制度について理解することができたか。また江戸幕府が実施した貨幣改鋳は、それぞれの時代の経済状況に対応するために実施されたことを理解することができたか。

エ 考察

① 「貨幣の質の変化が物価を動変させる要因となることを初めて知ったが、同時期に発生した天変地異も物価変動の原因の一つではないかと思う。」と解答する生徒がいるなど、複数の資料を検討し、答えを導き出す学習は成果があったと考えられる。「新井白石の貨幣改鋳がなぜ物価をさらに上昇させたのか、その理由を知りたい。」自分が疑問に感じたことや興味を抱いたことを教員に質問したり、自分で調べたりする生徒がいるなど、日本史に対する興味や関心を高め、さらに学習を深めようとする生徒もいた。

② 50 分間で実施可能な指導案を目指したが、江戸時代の貨幣制度の概略や貨幣の質と質の変化が物価にもたらす影響についての説明に予想外の時間がかかった。そのため、事前に貨幣制度の概略や貨幣と物価との関係について説明をする必要を感じた。また生徒にとって貨幣と経済との関係は理解しにくいところである、そのため生徒の理解がより深まるよう、現代社会や政治・経済など公民科との連携をより一層図らねばならないと考えた。
（3）授業研究事例C

ア 教材構成上の視点
授業では、すでに生徒の発表授業を年間を通して計画していたので、生徒は、あらかじめ教員が提示した課題（全21テーマ）から1人1つを選択して、発表授業の準備を行った。本時では、「元禄・正徳期の貨幣改銭とは何か。その結果、社会や経済はどうなったか。」という課題を設定して、事前に生徒に調査させ、当日は、その発表授業と、ワークシートに沿いながら課題学習する授業とを、2時間扱いで学習した。そこでは、「元禄・正徳期における貨幣改銭」について興味や関心をもたせ、資料から読み取ることを通じて、幕府の経済政策の内容とその社会的影響を理解させることをねらいとした。

イ 指導上の留意点
①発表の準備が十分に行われ、かつ発表時の質疑応答が活発なものとなるよう指導する。
②江戸幕府の経済政策への興味関心が高まり、かつ理解が深められるよう、江戸時代の通貨についての基本的な知識について補足説明する。
③資料・史料文やグラフ（「通貨発行量」）の読みとりが的確に行われるよう留意する生徒の反応によっては補足説明を加え、生徒が十分に考えられる時間を確保する。

ウ 評価の観点
①「元禄・正徳期における貨幣改銭」について、興味や関心をもつことができたか。
②江戸時代の貨幣制度について、「基礎・基本」を習得することができたか。
③資料から読み取ることを通じて、江戸幕府が財政の悪化に対してどのような政策をとり、その結果、社会ではいかなる変化が起きたかを理解できたか。
④ワークシートの設問に沿って自ら考え、課題を追求する姿勢がみられたか。

エ 考察
①生徒の発表活動では、貨幣改革の意味や貨幣改銭の影響について十分な説明がなされなかったので、事前指導の不足を感じた。しかし、その点について生徒から質問が出され、この点は次の2時間目の授業の導入となったことが示された。
②ワークシートの作業を通じて、概ね「基礎・基本」の習得が達成された。
③このワークシートには、萩原重秀と新井白石のどちらの貨幣改銭を支持するか、またはどちらも支持しないかを、理由とともに記入させた。授業後に回収したワークシートによれば、「萩原重秀を支持した者」（aとする）が10名、「新井白石を支持した者」（bとする）が5名、「どちらも支持できない者」（cとする）が5名であった。aの理由は、「貨幣の質が多少悪くても景気がなくなればいいなと思って選びました。」、bの理由は、「貨幣の質が上がったので。」、cの理由は、「庶民の生活を考えて新井白石の政策が、結果的には物価が上昇しきったので、庶民の私としてはどちらも支持できない。」などの回答がみられた。2つの財政政策を比較し、その結果をふまえて価値判断することで、学習内容を自己の中でも再構成できたようである。特に、「庶民の私」という立場から考えられた点は、本授業のささやかな成果である。授業に対する感想では、「自分で学習するのは難しいが楽しかった。」などが多くかかったが、「いつもの方が良いと思う」という感想もあり、主体的な学習活動を継続的に行うことの必要性を感じた。
ワークシートA

c元禄・正徳期における貨幣改銭

(1) 貨幣の種類（1）

金貨（拋銅）
銀貨（拋銅）
銭貨（銅）

・どこでつくられるの？（2）（3）（4）
・三貨の交換率は？ 1両＝銀50（60）両＝銭4貫文（1貫=1000文）
・金貨といっても100%金できているわけではない。（資料1参照）

(2) 貨幣の質・発行量と物価・景気の関係

＜貨幣の質＞

・質が悪い→貨幣の価値が下がるから物価（5）
・質が良い→貨幣の価値が上がるから物価（6）

＜貨幣の発行量＞

・発行量が多い→景気が（7）なる
・発行量が少ない→景気が（8）なる
※実際にはこの通りにならない場合もある。

(3) 元禄期の貨幣改銭

・貨幣改銭って何？（9）
・具体的にどれがどういうことをやったか？

勘定時制（10）による（11）発行
＜作業＞資料1にある元禄小判のグラフを、慶長小判と同じように金の含有率を表して完成させなさい。

☆資料から豊原重秀の貨幣改銭を考えてみよう。
問1. 元禄小判は慶長小判と比べてどのような金貨か？
（12）
問2. 豊原重秀が貨幣改銭を行ったねらいを、問1の結果と資料2から答えなさい。
（13）
問3. 問1の結果豊原は貨幣の発行量を多くしたが、このねらいは何か？（2）の関係を参考に考えなさい。
（14）
問4. （2）の関係や資料3から、この貨幣改銭が庶民にとってマイナスになっている点を答えなさい。
（15）

(4) 正徳期の貨幣改銭

・具体的にどれがどういうことをやったか？

（16）による（17）発行
＜作業＞資料1にある正徳小判のグラフを、金の含有率を表して完成させなさい。

☆資料から新井白石の貨幣改銭を考えてみよう。
問5. 正徳小判は元禄小判と比べてどのような金貨か？
（18）
問6. 新井白石が貨幣改銭を行ったねらいを、（2）の関係から答えなさい。また実際そのねらい通りになったのか？その結果を資料3をみて答えなさい。
ねらい（19）
結果（20）
問7. 問5の結果、幕府財政はどうなったか？
（21）
問8. 問5の結果、貨幣の発行量は少なくなってしまったが、これにともなった経済のマイナス点を（2）の関係を参考に答えなさい。
（22）
(5) 萩原重秀と新井白石の経済政策の評価
私は（萩原重秀・新井白石）を支持する。
＜理由＞

＜資料１＞小判1両中の金成分比

<table>
<thead>
<tr>
<th>金含有率</th>
<th>0</th>
<th>10</th>
<th>20</th>
<th>30</th>
<th>40</th>
<th>50</th>
<th>60</th>
<th>70</th>
<th>80</th>
<th>90</th>
<th>100%</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>慶長小判(1601)(86.8%)</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>元禄小判(1695)(57.4%)</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>正徳小判(1714)(84.3%)</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

＜資料２＞「折たく柴の記」（新井白石）という書物の一部抜粋（現代語訳）
……かさねて萩原重秀に案を出させたところ、こう言った。「前代将軍義則と吉公のもと、毎年の支出額が収入額の2倍に増え、国家財政が早くもつまずいていたので、元禄8年(1695)の9月から金銀貨を改鑄された。それから今にいたるまで、毎年、幕府が改鑄によって得た利潤を合計で約5000万両になり、この利益でいつも財政の不足を補っていたのであるが、…」

＜資料３＞

米100俵あたりの価格の推移

(土肥豊高著「近世物価政策の展開」の付録の近世米価表をもとにグラフを作成。)
ワークシートB

重秀と白石

荻原重秀（1658～1713年）
下級旗本出身であったが、経済官僚として順調に出世をかさね、将軍側の時代には、勘定奉行役となり、ついで1696年には貨幣改廃を建議し、それがきっかけとなって貨幣改廃の責任者となった。彼の貨幣改廃により幕府は元禄時代から十六年までに460万両の益をあげた。6代将軍家宣の時代になっても、勘定奉行として財政政策を推進したが、1712年新井白石との対立の中で奉行職を罷免された。

新井白石（1657～1725年）
2度にわたる主家の一揆にも関わらず学問を学び、30才の時木下順慶の門人となり、その推挙で徳川家宣の侍講（「じこう」）さらには幕府の侍講（「じこう」）に至った。幕府として重視したのは、金銀貨幣の改廃問題で、貨幣に対する人民の期待を裏切ってはならないと考え、その責任者たる荻原に反対の立場をとせず、荻原の退庁と、貨幣の品位を従来のものに戻した。幕府として活躍する一方で、歴史学や地理学などの分野で業績をあげた。

問 題　荻原重秀の貨幣改廃はどのような理由で行われたか、史料を読み空間に適語を入れなさい。

（史料を読み理解する）

貨幣改廃はまず第1に、小判や銀貨が本物であることを証明する湯印（ごくいん）が、流通するうちに摩耗し本物かどうか判断がつきにくくなっているから、湯印をうち直す必要があるとしている。

第2には、鈴木からの金銀の産出量が（ ）していること。そして第3には、市場で必要とされる貨幣の流通量が（ ）しているため、発行額を（ ）させる必要がある。以上3つの理由により貨幣改廃は実施された。

問 題　荻原重秀の貨幣改廃はどのような影響をあたえただろうか。資料をみて問題に答えなさい。

質問1：米価の推移をしめすグラフをみて、貨幣改廃の以前と以後では米価はどのように変化していますか。

（土肥福高著「近世物価政策の展開」付録の近世米価表をもとにグラフを作成した）

答え
問 題 萩原重秀の貨幣改鋳は、教科書では財政収入を増加策として計画され、実施された。そして幕府は質の劣った小判の発行を増加し、多大な増収を得たが、物価の騰貴をひきおこし、人々の生活を圧迫したと評価されている。では貨幣の改鋳によりなぜ物価が上昇したのかグラフや資料をみて考えてみましょう。

資料1・江戸時代の小判の成分比の変遷を示すグラフ

<table>
<thead>
<tr>
<th>年</th>
<th>名称</th>
<th>大きさ</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1601年</td>
<td>慶長小判</td>
<td>4.73 令</td>
</tr>
<tr>
<td>1695年</td>
<td>元禄小判</td>
<td>4.75 令</td>
</tr>
<tr>
<td>1710年</td>
<td>宝永小判</td>
<td>2.49 令</td>
</tr>
<tr>
<td>1714年</td>
<td>正徳小判</td>
<td>4.75 令</td>
</tr>
<tr>
<td>1716年</td>
<td>享保小判</td>
<td>4.74 令</td>
</tr>
<tr>
<td>1736年</td>
<td>元文小判</td>
<td>3.48 令</td>
</tr>
<tr>
<td>1819年</td>
<td>文政小判</td>
<td>3.49 令</td>
</tr>
<tr>
<td>1837年</td>
<td>天保小判</td>
<td>3 令</td>
</tr>
<tr>
<td>1839年</td>
<td>安政小判</td>
<td>2.4 令</td>
</tr>
<tr>
<td>1860年</td>
<td>万延小判</td>
<td>0.88 令</td>
</tr>
</tbody>
</table>

このグラフは小判1枚あたりに含まれる金の含有量を示したものです。
時代によって小判の品位が異なることを確認してください。なお当時の小判は金と銀の合金製でした。

グラフで色が濃い部分は金の含有量を示している。
小判1両の重さ（1両=3.75グラム）

質問1：元禄小判の金の含有量はどう変化しましたか。

答え

質問2：小判1枚あたりに含まれる金の含有量が減少すると、どのような影響があると思いますか？
小判1枚あたりに含まれる金の含有量が低下すると　→　小判1枚あたりの価値は（　　）する。
小判1枚あたりの価値が（　　）すると　→　相対的に物価が（　　）する。
* つまらない貨幣改鋳が行われた小判の品位が（　　）したことが、物価が上昇した原因の一つとなったと考えられる。

資料2・元禄八（1695）年から正徳五（1715）年までの主な出来事

<table>
<thead>
<tr>
<th>年</th>
<th>事件</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1695年</td>
<td>元禄の貨幣改鋳実施</td>
</tr>
<tr>
<td>1697年</td>
<td>古金銀の通用期間を限り、新鋳造された貨幣との交換を命じる</td>
</tr>
<tr>
<td>1698年</td>
<td>江戸で大火事（「勤願火事」）が発生する</td>
</tr>
<tr>
<td>1699年</td>
<td>諸国暴風雨により凶作が深刻化する</td>
</tr>
<tr>
<td>1700年</td>
<td>幕府より全国の酒造業者に「酒造半減令」が下される</td>
</tr>
<tr>
<td>1702年</td>
<td>凶作のため畑の死解が多数発生。畑害でも松前飢饉となる</td>
</tr>
<tr>
<td>1703年</td>
<td>南関東に大地震発生、江戸市中で建物の倒壊・火災が発生する</td>
</tr>
<tr>
<td>1704年</td>
<td>長崎の鰹火、さらに利根川流域でも出水被害が発生した</td>
</tr>
<tr>
<td>1706年</td>
<td>元禄銀を改鋳する（「宝字銀」の発行）</td>
</tr>
<tr>
<td>1707年</td>
<td>宝永地震発生、さらに富士山の嘔火火炎に武蔵・相模・駿河で降灰被害が深刻化</td>
</tr>
<tr>
<td>1710年</td>
<td>宝永の貨幣改鋳実施（「乾字銀」の発行）</td>
</tr>
<tr>
<td>1714年</td>
<td>萩原重秀罷免、正徳の貨幣改鋳実施</td>
</tr>
</tbody>
</table>

質問3：右の年表と問題1のグラフをみて、気づいたことをノートに書きなさい。

質問4：教科書では物価の騰貴は貨幣改鋳により発生したと記述されていますが、あなたはどう考えますか、ノートにあなたの考えを記しなさい。

-23-
文治政治の展開

1. 武断政治から文治政治へ
   (1) 家綱政権（1551～1680）
   ① 武断政治 → 大名の改易 → （　）・（　）者への増加
   ② 1651年 徳川家光 死去 → 家綱4代将軍に（11歳）→ 1651年、（　）の乱
   ③ 文治政治への転換 1651年、（　）の禁止を緩和（50歳以下の大名）
       1663年、（　）の禁止

   (2) 元禄時代（1680～1709年）と正德の治（1709～1716年）

   人物紹介：新井白石（1657～1725）
   江戸中期の文学者。6代・7代将軍を補佐して正德の治を行った。小藩の武士の子として生まれたが、木下順慶の門人となり、その推薦で甲府藩家主徳川綱豊（のちの6代将軍家宣）の侍講（儒学の師）となった。
   1710年、朝廷と幕府の関係を改善するため、関院宮家（のちの関院）を創設した。
   1711年、（朝鮮）通信使の待遇問題で簡素化を実施した。
   1712年、勘定奉行の荻原重秀を罷免し、1714年に貨幣改錮を実施して正徳小判を発行した。
   1715年、長崎新令を出し、長崎貿易に制限を加えた。
   著書には、歴史書『続史余論』、自伝『折たぐ栞の記』など多数。

2. 元禄・正徳期における貨幣改錮
   (1) 幕府財政の赤字
   ① 1657年（　）＝（振興火事）→ 死者10万人を超える → 江戸の復興費用
   ② （　）産出量の減少
   ③ 綱吉の豪華な生活・大寺院造営 → （　）寺・護持院

   (2) 貨幣改錮
   下級の旗本であったが、幕府の依頼を受けて江戸の興討役を務め、さらに1696年には勘定奉行となった。1695年（元禄8）、貨幣改錮を行い、正徳小判を発行した。
   1712年、新井白石によって罷免された。

課題1 下の金貨成分配表について、次の各成分の数値を、それぞれの小判において横グラフを作成しなさい。ただし、1匁＝3.75gである。

| 元禄小判 | 4.76匁 | （金の含有率は57.4%） |
| 正徳小判 | 4.76匁 | （金の含有率は84.3%） |

<table>
<thead>
<tr>
<th>種別</th>
<th>年</th>
<th>重量</th>
<th>含有量（%）</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>1</td>
<td>2</td>
<td>3</td>
</tr>
<tr>
<td>慶長小判</td>
<td>1601</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>元禄小判</td>
<td>1695</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>正徳小判</td>
<td>1714</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

-24-
課題2 左下の金貨成分表を見ると、元禄小判は、慶長小判と比べてどのような金貨であったか。
金の含有量は( )、貨幣の質は( )。

課題3 左下の金貨成分表を見ると、正徳小判は、元禄小判と比べてどのような金貨であったか。
金の含有量は( )、貨幣の質は( )。

課題4 下の史料は、新井白石の「折たく柴の記」からの引用である（わかりやすく改めた）。この記述から、
荻原重秀が行った貨幣の改錬は、幕府財政にとってどのような結果をもたらしたか。
改錬によって( )により、幕府財政は( )。

荻原重秀に案を出させたところ、こういった。「前代の将軍綱吉の時、毎年の出金額が収入額の2倍
も増え、国家財政が早くもつまづいていたので、元禄8年（1695）の9月から金銀の貨幣を改錬した。そ
れから今に至るまで、毎年、幕府が改錬によって得た差益額は合計で約500万両になり、この利益でい
かも財政の不足分を補っていたのであるが、元禄16年（1703）の冬におこった大地震のために傾いたり
壊れたりした所を修理するために及んで、毎年入っていた差益額もたちまちなくなってしまった。」

課題5 下のグラフは、米の価格の変動を表したものである。荻原重秀が元禄の貨幣改錬を行ったのが、16
95年（元禄8）とすると、米価はどのように変動したか。

課題6 下のグラフを見て、1714年（正徳4）に新井白石が正徳の貨幣改錬を行ったことで、米価はどのように
に変動したか。

課題7 蒔原重秀と新井白石の経済政策について、どちらを評価しますか。下に記して下さい（理由を記す）。

①私は（荻原重秀・新井白石）を支持する。
②私は、どちらも支持できない。
＜理由＞

今回は、作業習うを中心に考えてもらう授業を試みてみました。授業の感想を書いて下さい。

3年 組 番 氏名

-25-
(地理グループ)

地理グループでは、「環境問題」を教材として取り上げた。この問題は様々な科目で教材化できるテーマであるが、「地域」を学ぶという地理の特性を重視しながら、効果的な授業づくりを目指し研究を行った。

1. 地理の授業で環境問題を取り上げる視点

(1) 地理独自の観点

環境問題は、理科・家庭科・公民科などでも授業で取り上げられているが、地理において地域性や諸地域の国際的な経済形態を学習する視点から、様々な事象（例えばハートアイランド）を扱うことによって、国内外における環境諸問題を理解させ、いかに我々の生活に経済形態が深いかを認識させることができる。それからさらに生徒達が、「なぜ？」「どうして？」といった意識を深め、追究意欲に転換することができる。

(2) テーマを掘り下げる過程をより自ら学習を深化できる観点

項目・現場などを断片的に暗記するのではなく、テーマを掘り下げることによって、生徒たちは自ら学びさらに学習を深化できる。たとえば、京都議定書に絡みメディアを通じて南北問題あるいは日本と東南アジアの貿易を具体的に理解させ、自ら問われている環境問題にまで興味・関心を発展させることができる。

(3) 生徒に提示できる身近な教材を活用できること

我々が日本の資源の多くを輸入に依存していることを、身近な題材（食糧問題等）や手に取る教材を授業で提示することができる。身近な実物教材を提示し、そこから問題性を考えさせることができるというのは、地理という科目の特長である。たとえば、食料品については、その輸出国は様々で、より生徒の興味・関心に経済形態の実象がある。それら身近な教材を用に活かし「どこの国から？」「どのように生成されるのか？」「生産されるための問題は？」等へと諸外国の環境破壊と現象が起こっている地域の姿をと諸外国の経済形態を理解させ、さらに環境保護へ意識改革を図ることができる。

(4) 地域と地域の経済形態から捉えられる観点

単なる意味や内容だけという平面的な捉え方のみに終わらず、地理特有である地域と地域の経済形態の特定や個人の移動を例に挙げ空間的関係を理解させることができる。

(5) 地名・場所・地図・統計など地理特有の教材を利用

基礎・基本とされ暗記項目としてとらえがちな地名・場所を、生徒の認識形成を助けるビジュアル的資料を活用し、興味・関心をもたせることによって学習させることができる。また、地図を活用することにより読解力を育成したり、統計を活用することにより諸現象を読みとる力を伸ばすことも可能である。

(6) “人間”が登場する科目として

環境を顧かす諸問題は、そこで生活する“人”へと最も深く関わる。特に、環境破壊による原材料輸出国の第一次産業労働者への影響は、先進国の豊かさとの対比を含み、最も深く生徒に理解させたいことである。と同時にその解決について考察させ主体的に発展させたい。以上の視点から、以下にあげる森林破壊に重点を置き、研究主題に沿った授業展開の工夫を試みた。
2 熱帯林破壊を取り上げた理由

現代社会においては、地球温暖化や砂漠化、大気汚染、森林破壊など、さまざまな地球的規模の環境問題がある。これら環境問題に該当する項目を、地理の授業において一つ一つ取り上げて学習することは、授業時数を多く費やし、内容においてもポイントとなる事柄が多くなり、かえって生徒の混乱を招き、基礎・基本の習得にも悪影響を及ぼすおそれがある。また、個々の現象や知識の理解に重点が置かれどちになると、環境問題がわれわれの日常生活に深い関わりを持っているということを、生徒に認識させることがおそらくになると考える。そのため、網羅的な学習は避け、日常において、より身近にとらえることのできる話題を授業に積極的に導入し、生徒の興味関心を喚起し、問題意識を深めたいと考えた。

今回の研究では、熱帯林破壊を取り上げた。このテーマによって教科化できる事柄は、多様である。その一つとして、日本と世界の結びつきを挙げることができる。熱帯林の伐採による木材の輸出入という関係に加え、私たちが食している「エビ」の養殖が、熱帯林破壊と大きく関係していることを取り上げれば、「エビ」の輸出入が環境破壊の背景にあることと結びつく。このように、世界の諸地域の結びつきを、生徒は多面的に学ぶことができる。

熱帯林破壊の激しい地域を地図により調べてみると、アマゾンや東南アジアであることがわかる。そのうち、東南アジアの熱帯林破壊は、ラワン・チーク材という木材伐採によるものばかりではなく、海岸部に広く分布しているマングローブ林の伐採によっても引き起こされている。このマングローブ林の伐採の大きな原因としてあげられるのが、「エビ」の養殖池の開発である。つまり、日本における「エビ」の需要が熱帯林破壊を引き起こしているということがいえる。東南アジアでは、深刻な熱帯林破壊がおこっているが、実は遠く海の向こうの日本の生活事情が、環境破壊の一因となっており、さらには、これが地球的規模の環境破壊にもつながっているということを、生徒に認識させられるであろう。また、環境破壊及びそれらを引き起こす要因によって生じた現地の人々の生活の変化を取り上げながら、地域を理解させる学習に発展させたり、南北問題や大量消費社会などにも話題を広げながら、問題の解決を生徒に考察させることもできるであろう。

一方、生態系を構成する重要な要素である森林資源の破壊は、地球温暖化や大気汚染、土壌流出や砂漠化など、地球的規模で問題となっている様々な環境問題へも悪影響を与え、われわれ自身の生活もおびやかされている。このように、生態系の破壊は、われわれ人間の生活の舞台そのものに破壊を引き起こすことを生徒に認識させるとともに、森林の重要性についてより深く考えさせることができると考える。

以上のように熱帯林破壊ののもず多面的な問題性を教材として生かしつつ、身近な地域、身近な話題を授業で取り上げることで、生徒が興味・関心に基づき学習を深められると考える。また、地図・グラフ・統計を読みとったり、作業したりすることにより、的確に基礎・基本の習得を行い、生徒自らが問題意識を深め、課題解決について考えているような授業展開を工夫した。
## 3 授業研究
### （1）指導計画

<table>
<thead>
<tr>
<th>学習項目</th>
<th>具体的な学習内容</th>
<th>指導上の留意点</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>第1時</td>
<td>環境問題とは何か？</td>
<td>環境問題が発生した原因を考え、具体的な問題事項を列挙させるとともに化石燃料についての理解を深める。原油、石炭などの実物教材を手に取らせ確認する。[注①]</td>
</tr>
</tbody>
</table>
| 第2時 | 身近な環境問題 | 「森林の重要性」について。
今夏の猛暑とヒートアイランド現象との関係、森林の放射冷却作用について新しい記事を活用する。[ワークシート①] |
| 第3時 | 南北問題の導入 | エネルギー消費量（原油）の比較（日本とインド）を統計から読み取る。先進国と発展途上国を地図帳を用いて確認する。[ワークシート②] |
| 第4時 | 熱帯林はなぜ伐採されるのか。 | アマゾン川流域の森林伐採の原因と現状についてVTRを視聴。 |
| 第5時 | 熱帯林と日本との関係Ⅰ（本時） | タイから輸入されている食材やエビの養殖を上げることで日本とタイとの関係について考えを深める。
[ワークシート③] |
| 第6時 | 熱帯林と日本との関係Ⅱ | マングロープ林とはどのような木で、どのように用いられているか、伐採の原因がエビの養殖池拡大と関係が深いことなどを考える。
VTR視聴 [注④] |
| 第7時 | 熱帯林と日本との関係Ⅲ | マレーシアの森林伐採に日本が関わっていることに気付かせる。VTRを見て、自分の考えを書き出してまとめとする。
VTR視聴 [注⑤] |
| 第8時 | その他の環境問題 | 地球温暖化の現状・原因・対策について、副読本を活用してワークシートに記入する。
VTR視聴 [注⑥] |
<table>
<thead>
<tr>
<th>時</th>
<th>項目</th>
<th>内容</th>
<th>注解</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>第9時</td>
<td>ゴミ問題</td>
<td>温暖化の対策としてエネルギーの抑制の観点からゴミの問題を考える。ゴミを減らすためには何ができるか、身近にある再生品は何かを考える。3 R（リデュース、リユース、リサイクル）について考える。</td>
<td>ダイオキシン問題を紹介する。身近にある再生品としてペットボトルの再生品を紹介する。VTR 視聴 ［注③］</td>
</tr>
<tr>
<td>第10時</td>
<td>現境先進国ドイツと日本の比較</td>
<td>ドイツのフライブルク市のゴミの減量やパークアンドライド方式の取り組みを紹介する。[ワークシート①]</td>
<td>地図で位置を確認する。VTR 視聴 ［注⑧］</td>
</tr>
<tr>
<td>第11時</td>
<td>班別協議</td>
<td>身の回りで無駄にしているものは何があるか、環境問題に対して自分たちでできることは何か、を班に分かれて話し合う。</td>
<td>ワークシートに記入する。</td>
</tr>
<tr>
<td>第12時</td>
<td>発表、報告</td>
<td>班別で協議した内容をそれぞれ発表する。</td>
<td>模造紙を使って発表する。</td>
</tr>
</tbody>
</table>

注①「環境と公害を考える」（東京都教育委員会編）を読本として生徒に配布。かつての公害問題では足尾銅山汚染事件や水俣病があったことやエネルギーと地球環境問題を概説する。

注②「たみちゃんと南の人びと」（1987年 明石書店）を使用して、エネルギー消費1人当たりキログラム（石油換算）や乳児死亡率に見られる先進国と開発途上国との格差に着目させた。

注③VTR「NHK 透视：世界くらしの旅」より「森林破壊」を視聴させ、アマゾン川流域の森林伐採について、気がついた点・疑問点などをノートに記入させる。

注④「タイ 開発と民主主義」（1993年 岩波新書）エビの養殖以外に焼き鳥、チーズ入り本わさびなどに至るまでタイで生産されていることを紹介。

注⑤VTR『よみがえれ、マングローブ 海の森づくり』（東京海上火災保険[株] 総務部）ではマングローブの生態について視聴した。

注⑥VTR『地球と環境（熱帯林の減少）』（NHK ビデオ教材、環境教育指導ビデオシリーズ）を使ってマレーシアのサバ州でのラワン、タイでのマングローブ林の伐採の様子などを視聴。2075年に熱帯林が消失した場合、温暖化が加速することが述べられている。

注⑦VTR『地球温暖化』（NHK ビデオ教材、環境教育指導ビデオシリーズ）では温暖化によって海面が上昇した場合のシミュレーションなどを視聴した。

注⑧VTR『追跡！台所ゴミどこが問題か？』（農山漁村文化協会）では、ゴミ処理場の課題、プラスチック素材を使った燃色応急実験、高知市のノートレン運動などについて視聴した。

注⑨VTR『家庭ゴミはこうして減らす』（NHK クローズアップ現代）では、ドイツのフライブルク市の取り組みの簡易包装、ごみの分別などについて視聴した。
ワークシート①
[問題1] 次の新聞記事を読んで空欄に適する言葉を考えなさい。
「都市化によって都心の気温が高くなる現象については、環境省の調査検討委員会が9日、報告書を公表した。夏場に気温が30度を越える時間が、東京と名古屋市での20年間に倍増し、仙台市では3倍に増えたことが明らかになった。」（資料：朝日新聞2001/8/10より）
*
身近な環境問題に関心が持てるように新聞記事を利用したワークシートを作成。ヒートアイランド現象という言葉の意味を説解し、森林が果たす効果について次の記事を読ませた。

[問題2] 次の記事を読んで、森林が果たす効果を考えながら「にじみだし現象」を図示しなさい。
「都心の大きな森が深夜に冷気を吹き出し、最大で2.5度、周囲を冷やしていることが、東京都立大学の三上岳彦教授（気候学）らの研究で明らかになった。風が吹く昼間は、風下200メートルまで気温を下げていることも確かめられた。
東京都新宿区の新宿御苑の苑内外の75地点に自動温湿度計を設置、99年と00年の8月に観測した。1年目に苑の周囲に蚊取り線香を置いたところ、風もないのに苑の外側に煙が向かうことが分かり、「にじみだし現象」に注目した。」（資料：朝日新聞2001/7/24より）

ワークシート②
[問題1] 次のグラフの中で、日本とイラン及びブラジルの一人当たりのエネルギー消費を比較しなさい。

![各国の一次エネルギー消費(1997年)石油換算](chart)

出典：2001/2世界国勢調査

一人あたり(kg)

私たちは、インドの（ ）倍、
ブラジルの（ ）倍のエネルギーを使っていることになる。

[問題2] 次のグラフを見て、日本とインドとの「乳児死亡率」を比較しなさい。

![乳児死亡率(1000人あたりの数)(1999年)](chart)

出典：2001/2世界国勢調査

-30-
乳児死亡率ではインドは日本の（ ）倍であることがわかる。

ワークシート③

[問題１] 次の統計を見て、 _________ に当てはまる東南アジアの国を記入しなさい。

[日本の冷凍エビの輸入相手国]（日本貿易振興会『農林水産物の貿易』水産庁速報値並びに2001年のデータに関しては朝日新聞2001年5月6日の記事掲載の表と合わせて作成）

<table>
<thead>
<tr>
<th>年</th>
<th>インド</th>
<th>インドネシア</th>
<th>エクアドル</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1975</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>1980</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>1991</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>2001</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

[作業] 略地図の _________ に当てはまる国名、首都名を地図帳で確認しながら、記入しなさい。

[問題2] 次の記事を読んで、空欄に当てはまると思われる数値を選びなさい。
「ベンガル湾にゴダパリ川が注ぎ込むインド東海岸。日中40度まで気温が上がる広大な三角州にエビの養殖池がどんどんできている。4ヶ月の養殖で体調は約20分。ブラックスタイガー種で、黒いシマが浮き出ている。アジアで養殖されているエビの多くはこの種だ。

集荷場で処理され加工業者の元へ。頭を取りサイズごとで石を分けて冷凍。ほぼ全量が輸出。地元での消費は 20%程度。規格外の小さなエビだ。」

（資料 朝日新聞2001年5月6日）

(ア) 2
(イ) 20
(ウ) 40

*授業では、生徒に音読させた後、三択問題を選ばせ挙手させた。直前に書いてある「ほぼ全量が輸出」に注目すると (ア) 2、を選ぶことができる。

[問題3] 次の記事を読んで、空欄に当てはまる言葉を連想して、記入しなさい。
「もうけはコメとは比べものにならない」5年前から始めたアルラジフさん（45）は強気だ。「忙しくて遊ぶ暇などないが、家とクルマを新しくした」という。海の _________ と呼ばれるエビは当たれば大もうけ。「エビ御殿」が建つがリスクも高い。しばしば大量死がおこ
ワークシート④ 『家庭ゴミはこうして減らす 一昨日比較一』を見て

VTRを見ながら、次の空間に語句を記入しよう。

(1) 1週間のゴミの量を比較すると、1人あたり
日本では( )㌧、ドイツでは( )㌧である。

(2) そのうち、プラスチックなどの容器・包装類では、
日本では( )㌧、ドイツでは( )㌧である。

(3) ドイツの( )市の場合は地図帳の記号では、P 22、F・3 - 4であり、位置を確認し、マークしておこう。

(4) VTRを見て、気が付いたこと、わかったことを記入しておこう。

-------------------------------
-------------------------------

＊生徒の感想

・ドイツの人達はリサイクルを心がけていることがすごいと思った。野菜が生まれてあるのにばっかりした。
・日本のゴミは食べ物の容器が多い。
・ドイツのリサイクル法には驚いた。日本では簡単に捨ててしまう物もドイツでは何回も再利用されて人々の役に立っている、と思った。
・日本は使い捨ての社会になっていると思った。
・日本とドイツではゴミに対する考え方の違いを感じた。

（2）本時（第5時）のねらい

地球的規模で進行する環境問題について、「経済発展と環境保護」という2つの側面を持ち、そのジレンマから踏み立つ発展途上国に視点をあてるとともに、先進国と発展途上国との関係（南北問題）の理解を深める。

先進国日本との関わりを「食衣住」に焦点を当て、特に「食」のエビを媒体として間接的に熱帯林のマングロープ林伐採と関わっている構造に気付かせることをねらいとする。そのために本時では、エビ料理・種類、タイからの食材など生徒の身近な話題を教材化することで興味・関心を引きよう工夫する。現在、日本は「飽食の時代」と揶揄されるような大量生産、大量消費、大量廃棄の社会である。その非循環型社会を循環型社会に変換していく必要性を考察させ、日常生活にフィードバックできるようなライフスタイルを問い直し、生徒の自己認識を深める。

また、学習の中では地図帳での地名の確認、グラフや統計の読み取り作業などを通して今年度の研究主題である「基礎・基本の習得」を図る。

（3）学習指導案
実施クラス 1年生 35名
単 元 名 環境問題を考える 12時間扱い（本時は第5時）
使用教材 教科書及び地図帳
本時の展開

<table>
<thead>
<tr>
<th>学習項目</th>
<th>学習活動（学習内容）</th>
<th>指導上の留意点</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>導入</td>
<td>前回の復習</td>
<td>アマゾン川流域での熱帯林伐採の理由を確認する。</td>
</tr>
<tr>
<td>10分</td>
<td>本時の説明</td>
<td>アジア熱帯林伐採について図を使って導入する。</td>
</tr>
</tbody>
</table>
| 展開 | （1）エビ料理 | 身近なエビ料理の選択をさせる。
寿司、グラタン、エビタルなどの意見が出る。 |
| | （2）エビの種類 | エビの種類を発表させる。
「伊勢エビ、ブラックタイガー、車エビ」などの発言。 |
| | （3）冷凍エビの産地とタイからの食材 | 統計からタイを連想させる。
エビ以外に焼き鳥、チャーハン入り本わさび、ペットフードなどあることに気付かせる。 |
| 30分 | （4）冷凍エビの産地の確認 | ワークシートの国名、首都を地図帳を活用して確認する。
作業 |
| | （5）養殖の様子 | ワークシートの音読
タイと日本の賃金格差を説明。 |
| | 番外 | タイでエビの養殖が広まった理由を考える。 |
| 10分 | 「もうけはコメとは比べものにならない」という言葉からエビの養殖が広まった理由を考える。
授業を受けてよかったことをワークシートに記入。 |

（4）評価の観点
①「食・のエビを媒体として先進国日本と発展途上国タイとの関係（南北問題）が理解できたかどうか。
②地図帳での地名の確認、グラフや統計の読み取り作業などに取り組めたかどうか。
③「食・のエビを媒体として間接的に熱帯林のマングローブ林伐採と関わっている構造が理解できたかどうか。

（5）分析と考察
ア　授業研究について他の研究員の評価
・身近な話題で生徒が興味を持って、授業に臨んでいた。
・生徒が主体的に授業を受けていると感じた。
・実物教材の持つ力を改めて認識した。モノの持つ説得力だけでなく、そのモノを探し出して教室に持ち込む教師の意欲が生徒に伝わるのであろう。
・小道具（実物教材）を多数使用したことで、身近な問題と捉えができたのではないか。

イ　定期診査調査とその結果
定期診査によって生徒の理解度がわから、今回の指導案の評価ができる。以下、その内容の一部を記す。
①現在、日本は東南アジアからの最大のエビ輸入国であるが、そのエビはほとんどが養殖である。何という種類のエビか。
②東南アジアの海岸線に広がる熱帯林は何というか。
③また、その熱帯林はどのように利用されていたか。その利用方法を3つ答えなさい。
④タイやフィリピンなどで、その熱帯林が伐採されている理由は何か。
※①のブラックタイガー、②のマングローブはほぼ全員が正解できた。③の新などの燃料とし
て利用されたり、炭として輸出されたり、自家の建築材料として利用されていることも答える
ことができた。が、最も本質的な重要な④に関してはアマゾン川流域の焼けや混同している
生徒が約半数いた。このことは教材の組み立て、構成などを今後、十分に工夫することの必要
性を痛感した。

ウ　考察
研究主題にある「問題意識を深め、自ら課題を追求し、解決・行動できる資質を育成する」こ
とを目標に指導計画を立案した。それはいかにして主体的・意欲的に取組む姿勢を育むかとい
う問題と言える。そのためには、まず第一に意外性を持たせること、さらに「身近な話題」に
より生徒の興味・関心をひきつけるが大切であると考えた。
そこで実際に、タイと日本との密接なつながりを理解するために「ブラックタイガー」や「チ
ューブ入り本わさび」、「ベテフード」など実物を教室に持ち込んだ。言葉では知っていてもブ
ラックタイガーを見るのは初めてという生徒がいた。エビという「身近な話題」であり、それら
の多くが日本向けに養殖されているという事実を知って「意外性」を感じることができたようであ
った。また、できるだけ講義形式を避け発問を繰り返し行い、生徒に考えさせることを心がけ
た。そのようなことが「生徒が主であった授業」という他の研究員からの評価にも表れていたかと
思う。
次に、地図帳での地名の確認の際は機関指導を行ったり、難解と思われる漢字についてはルビを振ったり、意味を確認するなどして「基礎・基本の習得」については、きめ細かな指導を心掛けた。

また、今回の学習を通じて、知識を観列的に学習させるだけではなく、その背景にある「南北問題」や日本の「大量生産、大量消費、大量廃棄」の社会構造に目を向けさせ、実生活の中でも諸問題の解決を追究し続ける姿勢を育成することが必要と考えた。

最後に地理的な見方や考え方を習得させるために、具体的なイメージを持つ理解を深める手段としての写真、VTR などの視聴覚教材は重要である。特に、現代的な課題である環境問題を扱う場合、できるだけ新しいタイムリーな情報が効果的である。VTR を視聴させて生徒の興味・関心をより一層深めることができた。例えば、ゴミ問題で日本とドイツとの取り組みの違いを VTR で視聴させたが、日常的に過剰包装社会を当然のこととして受け入っていた生徒達が、積極的にリサイクル活動をするフライブルク市民の様子を見て、今後、自分たちも何か考えなければいけないのでは、といった意見がワークシートに見られた。

環境問題という地球的な課題を学習して、ある生徒が「社会科は一つの考え方から色々な考えが生まれて、それが一つ一つわかってくるとおもしろい。」という感想をノートに記していた。その生徒にとって「Think Globally, Act Locally」の標語にあるように地球規模の視点で考え、具体的に何が行動できるかを考察していく姿勢を習得できたのではないかだろうか。今後はいかに「Act Locally」ができるかどうか、いった点が課題である。そのためには、より一層、生徒が「自ら課題を追究し、解決・行動できる資質」を育成できる授業の工夫が必要である。
(6) まとめ

今回は、具体例として東南アジアの「熱帯林破壊」を中心に取り上げた。「熱帯林破壊」を切り口に、さまざまな事柄を学習できるように工夫したことで、深く発展的な授業づくりができてきたと思う。

森林の役割を導入に自然環境の仕組みという知識的な土台づくりができ、身近にあるエビやペットフードの話から、東南アジアの産業・貿易の発展がなぜ森林破壊に結びつくのかを生徒に考察させ、我々の日常生活と深く結びついていることを実感させた上で、「南北問題」にも言及したり、大量消費社会と日常生活のあり方までを生徒に考えさせる授業づくりができた。冷凍エビなど、授業に関係する実物を教室に持ち込み、生徒の興味・関心を引きだし、その効果の大きさを実感できたのも大きな収穫であった。

また、授業のたびに地図・統計を使い、読図力を育成するという知識以外の基礎・基本の習得もはかたり、班ごとに生徒が協議し発表する機会を設定し、主体的に考え解決しようとする態度や資質の伸長をねらう、授業の工夫も行うことでもできた。
こうした点で、研究主題にある、生徒の資質を育成するに有効な工夫ができたと考えている。

課題としては次のが考えられる。生活に身近なものを教材に取り入れることもあり、「環境問題」解決に向け、個人のライフスタイルの改善について生徒に考察させられたことは、成果であったと思う。だが、実際に「環境問題」の根底にある「大量生産・消費」や「南北格差」などという問題は、先進諸国の経済や価値観のあり方、あるいは社会の仕組みそのものに起因している面が大きいとも考えられる。したがって、問題の解決のために、個人一人一人が取り組むべき環境保全のあり方を知り、個人が属する社会全体に課せられる環境保全のあり方（国や自治体による環境保護政策と、それに個人がどのように関わって行けばよいのかということ）、「環境破壊」や「環境保護」に関わる企業のあり方などについても、我々は、より問題を整理し教材化する必要があったように思う。個人が負おうべき課題と、政府・自治体に課せられる環境保護政策や、国際協調の中で実現すべき環境保全などについて、生徒がバランスよく学習できるような指導の研究が課題であると考える。

また、生徒の実態や授業の進度に応じて、調べ学習やディベートを取り入れることも考えられる。生徒の主体性を伸ばす指導法として、効果的なと思われるの付記しておく。
【公民分科会】

研究主题
現代社会の諸課題を理解し、自ら価値判断し、自らの考えを表現できる能力をはぐくむ指導の工夫

1 研究主題設定の理由と研究の経過

1 研究主題設定の理由
現在の生徒の生活態度のなかに、「非常に軽い相対主義」とでも言えるものを感じる。ある問題について自分の意見をもち、他者の意見もしっかりと受けとめ、それを自分の意見にさらにフィードバックさせるという姿勢は、大切な資質である。しかし、多くの生徒は「その人がそう思うんだから、それでいいんじゃない」のような周囲への無関心な対応につどまってしまい、深い思考や豊かな想像力を働かせようとしないのである。それは「無責任な個人主義」とも言えるかもしれない。現代社会での希薄な人間関係も、こうした態度に影響を与えていると思われる。ITに代表される科学技術の発展は、反面で、他者との十分な精神的な関わりの欠如、という問題を生み出したと言うことができる。

そのため、このような問題を克服する主題を設定してみた。つまり、社会の諸問題について理解し、その上で自分なりの責任ある意見をもち、他の生徒の意見も尊重しながら、さらに自分の考えを表現できる生徒を育てる。そうした授業を目標とした。したがって、教師は贅否両論を公平に伝え、理解した内容のひとつひとつから生徒が価値判断を行い、さらに表現能力を高めることを重点とする授業の工夫をした。

2 研究の経過
本部会では、主题の主旨にそって「生命倫理」を扱うこととし研究を行った。現代の社会では、ほんのささいな理由から生命が奪われる事件が発生している。育児期の場合では、自分の欲求が満たされなければすぐに「キレ」てしまい、他者が生命を奪う一方で自らの生を傷つけるケースが目立っている。生命の尊重を軽視するような状況の背景には、生徒が生と死についての理解を十分行っていないことも考えられるのではないか。

そこで、「倫理」と「現代社会」の授業において、「生命倫理」について考察する授業を行うことにした。まず、自分自身のテーマとして生徒が考えやすく、意見も出しやすいと思われる「死」のありかたについて様々な視点から考えさせることにし、最終的に生命の尊重を感じさせようという方向性をもたせることにした。安楽死・尊厳死、告知と最終期医療、脳死と臓器移植、植物状態などの中から、誰でもが直面する可能性のあるケースを選び、生と死の問題を考える。できる限り生徒が主体的に意見を出せたいので、個別にワークシートを準備し、それをもとに様々な意見があることを紹介して、他者の立場を理解し自分の意見形成に再度反映させることを試みた。また、最先端の医療技術である異種移植を取り上げ、人間への臓器移植目的で豚を飼育することをめぐって否定的立場、否定的立場からそれぞれ討論を行わせた。立場を指定することで、様々な視点から幅広く自分の意見をもてるようにしてみた。最終的に
は、人間へのクローン技術の応用など科学（医学）の進歩が、単純に人間の倫理性と合致しないことに気づかせたいと考えた。

3 研究についての構造図

研究主題：現代社会の諸課題を理解し、自ら価値判断し、自らの考えを表現できる能力をはぐくむ指導の工夫

生命倫理

医療技術と人間のかかわりについて考えることにより、人間の生命の尊厳を自覚する公民科の授業

【展開1・倫理】
・脳死問題と臓器移植について知る
・脳死の医学的基準を知る
・欧米の死生観と臓器移植の関連を考える
・日本人の死生観、倫理観と臓器移植の関連を考える
・脳死臓器移植について自分の考えをもつ

【展開2・現代社会】
・異種移植について知る
・異種移植について自分の考えをもつようにする
・自他の意見を比較し、認識を深める
・科学（医学）の進歩の中で、「生命の尊厳」を問い直す
・生と死をめぐる今日の課題を学ぶ

倫理的なものの考え方の育成

多様な価値観を尊重する態度を培う

生命倫理について学ぶことを通じて、自らの意見をもち、それを表現できる能力を培う。
展開

展開 1 倫理の授業「脳死と臓器移植」

1 単元設定の理由
本単元では、倫理の学習として生徒が関心を持ちやすい題材を選ぶこととした。
そこで、哲学者の思想を概観したり、歴史的に哲学の流れをみるという学習ではなく、現代社会において争点となっていることで、生徒それぞれが価値判断できるものを題材とすることとした。
脳死と臓器移植の問題は、医療の側面や、倫理、宗教、文化など様々な観点から論じることができる。そして、最終的には、それぞれの人が自分で価値判断し、その態度を決めることができる事柄である。
脳死は「新しい死の形」という点で、生徒の知的好奇心を喚起するだけでなく、自らの生の在り方を見つめ直す契機となると考えた。
単元の展開の中で、欧米の哲学や日本人の死生観にも触れ、生徒の興味の幅を広げることを期待した。そして、生徒それぞれが自分の価値判断を問われることで、題材に主体的に関われるのではないかと考えた。
また、脳死と臓器移植を、生命倫理学の一分野とらえれば、現代において価値判断を問われている同質の問題として、クローン人間や遺伝子治療、安楽死等の問題があることを理解させることができる。
このように様々な広がりをみせる「脳死と臓器移植」の問題は、倫理の学習の良い題材になると考えた。また、倫理の学習全体の導入でもある本単元においてとりあげることで、今後の倫理の学習の動機付けとした。

2 単元の指導計画
(1) 脳死問題の発生と臓器移植（1時間）
(2) 医療的側面からみた脳死（1時間）
(3) 欧米の思想と臓器移植（1時間）
(4) 日本人の死生観、倫理観と臓器移植（1時間）本時

3 本時の学習

(1) 本時のねらい
・臓器移植の在り方についてについて、日本人の死生観や倫理観がどういう影響を与えてい
るか理解する。
・臓器移植法が、日本人の死生観に配慮していることを理解する。
・脳死と臓器移植についての自分自身の考えをまとめる。
(2) 展開

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>学習項目</th>
<th>学習活動</th>
<th>指導上の留意点</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>導入</td>
<td>前時のワークシート①（脳死判定から臓器移植までの流れ、欧米の哲学と臓器移植）受け取り、ノートに備える。</td>
<td>・板書をノートに写させるが、ノートのない生徒には教員が用意した提出用紙に記入させる</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>10分</td>
<td>前時の復習</td>
<td>前時の復習として、欧米の哲学と臓器移植について学習内容を再確認する。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>展開</td>
<td>日本人の死生観</td>
<td>「死装束」「お盆」「イタコ」等の実例や自分自身の経験をもとに、日本で伝統的に見られる死生観について理解する。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>古 25分</td>
<td>日本人の倫理観</td>
<td>・加藤尚武氏（生命倫理学）の理論を紹介し、日本人は「責任を超えた善行」より「相互性の倫理」を行動原理にする傾向が、欧米人より強いことを理解する。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>腦器移植法</td>
<td>・「責任を超えた善行」について、例えば新大久保駅での人命救出や電車内で座席を譲られるか等の身近な問題から理解する。</td>
<td>・ワークシート①により脳死判定と臓器移植の流れを確認する。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>腦死と臓器移植</td>
<td>・脳死と臓器移植について、今までの授業や資料集を参考にしながら、自分自身の考えをまとめる。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>まとめ 15分</td>
<td>腦死と臓器移植</td>
<td>・まとめたものを、ワークシート②（作文用紙）に記入する。</td>
<td>・機関指導し、全員が記入し提出するようにはたどりかせる。</td>
</tr>
</tbody>
</table>

(3) 評価の観点

・日本人の伝統的な死生観や倫理観を自分自身の経験や感性に照らして、理解することができたか。

・脳死と臓器移植について、正確な事実に基づきながら、様々な観点を考慮し、自分自身の判断をもつことができたか。
(4) 分析と考察

① 項目としての「脳死と臓器移植」

大多数の生徒の連想する死とは、いわゆる心臓死である。そこに、脳死という新しい死の概念が提示されたことに、生徒は知的好奇心を示した。

しかし、授業では、医学的な脳死の条件の説明に終始してしまった。効果的に指導をするのに、例えばドナーカードを保持して、交通事故死をした17歳の女性（脳死判定の条件が揃わずに第2回で判定を中止）の例などをあげ、誰にでも起こりうる可能性のある、より身近な問題として提示した方がよかったと考えられる。

② 生徒への質問と回答

生徒への質問（表1）の回答では、「脳死」を認めるとしたものが6割弱、「臓器移植」を認めるとしたものが7割強であった。「『認める』と『やや認める』を合わせた数」

矛盾しているようにも思えるが、従来の「心臓死」の概念を持っている生徒にとって「体が温かい」状態を死と認めるには抵抗感があり、「脳死が全て停止したときが完全な死」「体は死んでいない」とする意見が見られた。それに対し、「臓器移植」を認めるのは、人助けになる良いことという思いがあるのだろう。「自分は提供してもいい」という意見が割合に多かった。おもろいのは、「死んでいても臓器をとられるとちょっと寂しい」「どうせ燃やされるのだろうけど、何か嫌だ、言葉では説明できない」という意見があったことである。死を完全な消滅と考えることには何か割り切れないものを感じているのだろう。

「臓器移植に同意した家族の脳死判定と臓器移植を認める」に6割強（「認める」と『やや認める』を合わせた数）が賛成した。本人の意思の尊重ということでもあろうが、家族のことでも「その人がそう思うのだからそれでいい」という、自分自身の価値判断をすることなく単に本人の意志を尊重するというだけの感覚があるのなら少々気がかりである。生徒の文章の中にも、「その人の考えて判断すればいい」というのが散見された。

ただし質問項目にも検討を加える余地があり、生徒の考えをより正確に知るための研究が必要である。

（表1）生徒への質問と回答

<table>
<thead>
<tr>
<th>質問</th>
<th>認める</th>
<th>やや認める</th>
<th>やや認めない</th>
<th>認めない</th>
<th>無回答</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>①脳死を人の死と認めますか</td>
<td>18人</td>
<td>27人</td>
<td>15人</td>
<td>15人</td>
<td>0人</td>
</tr>
<tr>
<td>②脳死者からの臓器移植を認めますか</td>
<td>23人</td>
<td>33人</td>
<td>16人</td>
<td>4人</td>
<td>0人</td>
</tr>
<tr>
<td>③より臓器移植に同意して家族が脳死状態となったなら、脳死判定と臓器移植を認めますか</td>
<td>23人</td>
<td>24人</td>
<td>21人</td>
<td>6人</td>
<td>2人</td>
</tr>
</tbody>
</table>

* 総数 76人
③死生観と臓器移植
学習の導入として、脳死、臓器移植思想、哲学の関連について取りあげた。欧米人と日本人の死生観をとりあげたが、民族によって死後の世界のとらえ方に違いがあることに生徒は興味を示していた。それに対し、デカルト（物心二元論）やデューイ（プラグマティズム）の思想を、脳死や臓器移植と関連させながら紹介したが、生徒の反応はあまり芳しくなかった。生徒観から、宗教、仏教やキリスト教へと掘り下げるほうが、生徒の興味・関心をひいたかもしれない。

④ワークシートの活用
学習意欲の低調な生徒は、題材のおもしろさだけでは、学習に集中できないことがある。また、少し難しい課題を出すとあきらめてしまったり、授業のポイントがつかめないので意欲が低下してしまうことがある。そこで、教科書や資料集の重要語句の書き取り穴埋め問題で実施した。簡単にでき、ポイントをつかめるので、基礎的な知識の習得に有効であった。

ワークシート

- 心拍の停止、呼吸の停止、そして、瞳孔の停止（反射の停止）のいわゆる「死の三兆候」（心臓死）

↓ *資料集に記載されたような文章を見ながら穴埋めをする

( ), ( ), そして、( )（反射の停止）のいわゆる「死の三兆候」( )

⑤判断する力、表現する力
脳死と臓器移植については、さまざまな考えがある。そこで、授業のまとめとして、最終的に生徒それぞれが自分の判断で考えを持ち、自分の考えを論理的にまとめ、表現できることをねらった。自分なりの判断を持つためには、基礎的な知識の理解が必要である。授業では、事前準備を異なる考えを、公平に伝えた。また、なぜそのように判断になるのか、順を追って解説することで、論理的な思考の仕方が身に付くように配慮した。
授業では、文章によりそれぞれの考えを表現させた。事前準備をそれぞれの立場から自分の考えを表現できていたもの多かった。

現代の社会の風潮として、社会問題への無関心があげられる。社会問題に主体的に関わったり、問題意識を持つことは、社会人の資質として重要である。授業の中でも、知識を得ることに加えて、判断力や表現力も学力と捉え、その育成をしていかなければならない。
授業では生徒の実態や時間的な制限から、自分の考えを文章でまとめることにし、それを教員が次の授業で紹介することにとどめた。
しかし、真剣な議論をすることの少ない日頃の生徒の様子を見ると、ディベートにより自分の考えを深めたり、ロールプレイにより相手の立場に立ってものを考える経験が有効と考えられる。生徒の実態に合わせて、このような学習も考えてみたい。
展開2 現代社会の授業 「医療技術の進歩と生命倫理」

1 単元設定の理由
これまで「現代社会」等の授業で「脳死と臓器移植」など「生命倫理」に関わるテーマを取り上げ、現代社会に生きる「人間としてのあり方生き方」についての自覚を問うてきた。その中で、例えば資料として配布した「ドナーカード」を手にした生徒の多くは、臓器移植のために自分の臓器を役立てたいと答えるが、「親はどう思うだろうか」など自分だけでは判断できないと考える者も少なくない現れ、それは「私のこの身体・生命は私だけのものなのか」という疑問に直面したためである。この疑問にしっかりと向き合わせることで、今日間われているさまざまな「倫理」問題への理解を深めさせたいと考えた。

広辞苑（第5版・岩波書店）によれば「生命倫理（バイオエシックス）」とは、「古来、患者の生命をゆだねられる医師に求められてきた医の倫理に、人工授精・胎児診断など生殖への介入、臓器移植とそれに関わる脳死問題など、医療技術の発達により生じた新しい局面を加えた（後略）」概念である。そこで授業では、いわゆる「脳死判定基準」などのガイドラインが定まっていない、できるだけ最先端の話題を取り上げ、科学と生命の関わりを考察させる。その際、「倫理」を永遠不変のものと見るのはなく、社会的合意の積み上げによる発展的なものととらえさせたい。また、「倫理」の過程では、インフォームド・コンセントやクオリティー・オブ・ライフなどが重視されつつある今日の流れをふまえて、①すべての人在を「生命の主権者」としてとらえること、②価値の価値判断やライフスタイルが最大限尊重されることが不可欠であることを理解させたいと考える。

2 指導計画
上記テーマを【第1時】「異種移植」の是非をめぐって、
【第2時】移植医療から再生医療へ、
【第3次】「安楽死」と「尊厳死」、
【第4時】人間の生命の尊厳と「生命倫理」、という4時間で単元構成した。

本単元の導入となる【第1時（研究授業）】は、はじめにＶＴＲの視聴によって最新の医療技術（「異種移植」）の一端に触れさせた上で、班別討論の過程で自らの価値判断を行わせ、同時に自他の意見を比較させることで、本テーマ学習の「動機付け」となるようにした。
【第2時】では、「移植医療」において「ヒト以外の動物」がドナーとして注目されたり（第1時の「異種移植」）、また「再生医療」が希望されている現状を学ぶことで、「移植医療」の難しさの背景を考えさせた。その上で【第3時】では、「安楽死」と「尊厳死」をめぐる内外の事例を取り上げ、「人間の生命の尊厳」という概念を理解させた。さらに【第4時】では、最近報道されたその他の医療技術の話題（医）に触れ、それらの是非をめぐる対話（生徒→教員）を通じて、価値判断基準としての「生命倫理」とは何かの考察を深めた。

※「60才の日本人女性が体外受精で妊娠・出産」朝日新聞2001年8月7日
「死亡胎児の細胞を臓器再生の研究に利用」朝日新聞2001年8月5日

- 43 -
3 研究授業

（1）本時のねらい
医療技術の進歩をめぐる最近の話題の中から「異種移植」を取り上げ、新しい技術が私たちの社会に何を問いただすかを考えさせる。特に、この新しい医療技術の安全性は「科学的」の判断することができても、人間に臓器を移植するために豚を飼育することの是非はどのような基準で判断することができるのかという点について着目させ、現実社会が直面する「生命倫理」とは何かの一端を理解させる。
また、是非をめぐる討論を通じて、自らの考えを表現すること、他者の考えに触れて自らの認識を問い直す姿勢を身につけさせる。

（2）本時の展開

<table>
<thead>
<tr>
<th>学習項目</th>
<th>学習活動</th>
<th>指導上の留意点</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>導入</td>
<td>「異種移植」とよばれる医療技術</td>
<td>①視聴前の解説は敢えて行わず、映像から受けた直感的な印象を心にとどめさせる。</td>
</tr>
</tbody>
</table>
| 10分 | 「異種移植」の是非をめぐる討論 | ②「移植目的の無菌豚飼育」をどのように感じたかをワークシートに記入する。
③指名された2〜3名が感想を発表する。（5分）
※予想される生徒の反応で、「人間が豚を道具のように利用するようであっただ」など |
| 30分 | 「人間に臓器を移植するために豚を飼育することの是非」というテーマで班別討論をする。その際、偶数班は肯定する立場に、奇数班は否定する立場にたってその理由をまとめる。（10分） | ④機関指導しながら討論を促す。
「無菌豚は他の豚より幸せ」というVTR中の研究者の発言などを具体的に取り上げていく。 |
| | 偶数班と奇数班の代表者が班でまとめた理由を発表する。→相互に反論する。
その間、各自はワークシートに論点を記録する。（10分） | ⑤発表をよく聞き、その要点をまとめるよう指示する。 |
<p>| | | 作業1 作業2 作業3 |</p>
<table>
<thead>
<tr>
<th>作業４</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>⑥討論をふまえ、「移植目的の無菌豚飼育」の是非はどのような基準で判断されうるかを考え、ワークシートに記入する。（5分）</td>
</tr>
<tr>
<td>⑦臓器移植におけるドナー不足が背景にあることを理解する。移植医療の限界から再生医療が期待されていることを学ぶ。</td>
</tr>
<tr>
<td>⑥脳死患者からの臓器移植の事例が移植法施行後7例しかないことを資料で紹介。（12年8月16日現在）</td>
</tr>
<tr>
<td>⑦資料は「見出し」に注目させ、内容は簡潔に解説する。</td>
</tr>
<tr>
<td>⑧まとめを板書。私たちがまさに「合意形成」の当事者であることを確認す。</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>3 ) 評価の観点</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>①「異種移植」の是非について、自分自身の考えをまとめることができたか。</td>
</tr>
<tr>
<td>②討論を通じて自らの考えを表現し、また、他者の考えに触れて自らの認識を問い直す姿勢をもつことができたか。</td>
</tr>
<tr>
<td>③現代社会が直面する「生命倫理」をめぐる問題の複雑さを理解できたか。</td>
</tr>
<tr>
<td>④自らが「社会の合意形成」の当事者であることを自覚できたか。</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>(4) 分析と考察</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>① これまで授業で「臓器移植」・「遺伝子診断」・「出生前検診」・「デザインナーシャイルド」などを資料で本テーマを取り上げ、技術利用を「肯定する意見」と「否定する意見」を紹介した上で、その是非をめぐる議論や作文などを行っていた。そこで、討論が進むうちに、結局は「その人それぞれ」と結論づける生徒が増え、「私はイヤだけれども、僕にその人が良ければよい」といった「相対主義」から抜け出すことがなかなかできなかった。今回資料に「異種移植」を取り上げることで、「人間による他の動物の生命利用」の是非をめぐって、「予期がよかったよ」といった思考がナンセンスになることで、「生命倫理」についての考察がこれまで以上に深まることを期待した。</td>
</tr>
</tbody>
</table>
| ② 導入のVTR資料で生徒の関心を最もひいたのは、母豚から帝王切開で取りあげられた子豚を無菌状態にするために、ヨードシンキ液の中に頭からくぐらせた場面である。ショ
っキングな映像は生徒の関心をひくという点で導入資料として効果的だが、今回も「かわいいそう」など、情緒的な反応に多く結びついてしまった。しかし、「新聞記事は読む気がしない」「読めない」という生徒が多く、活字資料ではなかなか有効に活用できないのが現実であり、映像資料の持つ力は大きい。ただ、こうした映像資料であっても、集中して視聴できる時間には限りがあり、適切な使用が不可欠である。

③ ＶＴＲの視聴後、自分の感想をワークシートに記入させ（作業１）たが、事前に設定した設問から、ＶＴＲ中の飼育担当科学者の「無菌室で飼育されるブタは他の飼育ブタより幸せです」という言葉をどのように思うかという設問に急遽変更した。事前に設定した設問に対する生徒の反応から、「ひどい」「かわいそう」といった漠然とした感想しか出てこないと考えたための変更であった。しかし結果としては、生徒自身から「この言葉に関心を寄せた」という感想を引き出したが、その後の討論もより活性化したと思われる。与えられた設問に取り組むだけでなく、問題点を見いだし、課題を設定できる力の育成が今後の課題である。

④ 作業２において、班毎に肯定・否定の立場を割り当てたが、これは自分の意見はなかなか口に出して表現できないが、立場を指定すると比較的発言が増えるためである。自他の意見を比較させることで、自分の意見を一度相対化させることができたが、本時では十分な討論の時間が確保できなかった。そのために、作業３も不十分となった。

⑤ 作業４において、否定意見として「利用される動物の意思に反するから」という意見が出された。この時授業者は、人間の立場のみのは非論を超える「大事な発想」である趣旨の取り上げ方をした。しかし、この点については、人間は「肉食や皮革の利用などで動物の命をいただく」ことをしっかりと押さえがしつが必要であった。食肉のため飼育すること、ドナーとして飼育することの根本的な違いをしっかり見つめさせる場面となったはずである。また、「生き物を殺すこと（命を奪うこと）の意味」、動物は「他の生き物の命の上」にその命を成り立たせていることなどへの再認識が「生命倫理」の学習の際には不可欠であることに気づかされた。

ワークシートの「設問」

作業１ 価値判断
ＶＴＲから、「移植目的の無菌豚飼育」をどのように感じたか。率直な感想を書きなさい

作業２ 自他の意見の比較
「無菌ブタは普通のブタより幸せか」というテーマで班別討論をする。その際、偶数班は肯定する立場に、奇数班は否定する立場にたってその理由をまとめてなさい。

作業３ 他者の立場理解
対立意見の班の主張をまとめなさい。

作業４ 自分の意見形成
討論をふまえ、「移植目的の無菌豚飼育」の是非を考えるとき、科学的な安全性以外にどのような基準で判断することが必要だと思いますか。
新学習指導要領で重視している「課題を設定し追究する学習」について、「生命倫理」という課題を設定し、医療技術の進歩と生命倫理観に迫ることを目標とした。
「学習の過程で考えたことや学習の成果を適切に表現」させるために自己の課題とつなげる姿勢や自らの生き方を主体的に決定できる能力を育成する学習内容と方法を開発し、さらに、自分の考えを論理的にまとめ、表現できることをねらった。

「生きる主体としての自己形成」を図るという点を重点化し、生徒自らが主体的に探求し自己形成を図るという観点が新学習指導要領では顕著に重視されている。
自己の課題とつなげたり、主体的に考察させるために、課題（問題点）を見つかられない生徒にどう対応していくか。議論を重ねた点である。
「問題場面」を用意する方法を探り、生徒が問題や課題を感じられる場面を、時間をかけて用意する必要があった。

① 初期段階・・・生徒自らのこれまでの生活体験から課題のイメージを引き出し、それに基づいた思考を導く。
② 教員側からの問題場面提起・・・事実・事象との対決を通じて、自らのイメージを修正・発展することができるよう導く。
③ 課題のまと・・・最終的なまとめを教員が一方的におしさえることなく、課題の是非をめぐる討論を通じて、自らのイメージと言葉によって結果をまとめ、他の考えに触れて自らの認識を問い直す姿勢を身につけさせる。

上記の構成を念頭に、生徒の主体的な学習を促す指導計画を作成し、研究授業・検証授業を実施した。

脳死は人の死かどうかが臓器移植とのからみで社会問題になり、それを契機に「死」が正面から語られるようになっている。いま、「死」の意味が大きく変わろうとしている。
人間らしい「生」とは何か、「死」とは何かを問い直し、尊厳死、臓器移植、さらには異種移植の是非について生徒自らの考えを引き出すことができた。
また、これらの問題について、生命の価値、生と死といった問題として自分自身と引きつけて考えさせることを常に念頭に置いた。そして、人間の生命を自然の生態系の中で捉えさせ、人間以外の生命と人間との相互依存関係を気づかせ、全ての生命体との調和的な共存関係の重要さの理解を促進させ、諸課題の本質や問題点を捉え、課題の追究を通じて、望ましい解決のあり方について様々な観点から考察させることに一定の成果を得ることができた。

研究授業においては課題プリント（ワークシート）を活用した。授業はこのワークシートの発表を中心に進められた。生徒の思考を進める際、基礎的な知識の習得に有効であった。
さらに、アンケート調査を実施し、さまざまな考えや是非両論があることを提示した。
学び方の習得を図るという観点からも「統計などの資料の見方やその意味」「追究した結果のま
とめ方」について一定の成果が得られた。
しかし、生徒自らの考えを引き出すために、自分の考えを文章でまとめ、それを次回の授業で発表することに止まった点が研究授業の課題として残された。
検証授業はこの点を踏まえ、課題の是非を班別に議論する時間を設定した。機械的に、肯定する立場の班と否定する立場の班に割り振られた生徒は、生徒自身が情報を分析し成果を発表する等、関心、意欲、態度の評価を実施することにより、自分自身、他者の良さを多面的に理解させる実践例となった。

現代の特質と倫理的課題について、自らの生き方につながるような学び方を通じて思想を深め、生きる主体としての豊かな自己形成を図れるようにすることを重視した授業研究を行った。
思想史を離れてテーマ的に現代の諸課題を考えさせ、必要があれば、思想家の思想を援用することにした。
課題追究学習は生徒に任せきりにするのではなく、課題設定から始まるそれぞれの過程つまり ①課題の発見 ②資料の収集とその活用 ③課題の追究 ④課題のまとめと発展の各段階で生徒の問題意識を高め、生徒自らの課題追究の見通しを持たせ、主体的な学習を進めることができるような適切な指導を必要としている。
そのためには生徒の発想力、洞察力、思考力、表現力など、育成したい生徒の能力は多岐にわたる。生徒が今まで持っていた「見方や考え方」では捉えることはできないものに出会ったとき、それは分かりたい解決したい課題となった。そこで、課題解決のために様々な情報、資料あるいは他者の考え方を用いて課題を追究し、解決することに役立つ理論や考え方を用いて考え方を自ずと取り入れ、結果として視点を広げ、深めることができた。

評価に際して、「学習の過程で考えたことや学習の成果を適切に表現させる」ことを重視した。どのような根拠でどんな結論を導き出したのか。学習によって得られた結論とその結論を導き出した課程を具体的、論理的に第三者にわかりやすく説明しきあるいは文章に示す課程で、適切に表現させることによって明らかになる。
さらに生徒の意欲・関心・態度などの学習のプロセスを重視する多面的な評価方法、生徒の意欲と能力を高める評価のあり方について継続して研究することが課題である。
平成13年度教育研究員研究報告書

東京都教育委員会印刷物登録
平成13年度 第41号

平成14年1月23日

編集・発行 東京都教育委員会
所在地 東京都目黑区目黒1-1-1-14
電話番号 03-5434-1976

印刷会社名 株式会社 ドゥ・アーパン